徒然草諺解卷一

序

それ人の天然乃ふかいのあるゝ後のことし
我ふ秋月ゝ似るゝと寒山子乃いへるゝ
耳ゝよりまりて学へしのされと利と名
のゝりゝまもひて一生ゝ苦ゝのちゝすふ
を形の役とするを陶淵明のかゝるゝ海と
ゝむへるゝすや佛書五百函儒家十三
經道家多少の篇ゝふふの一字と従こゝ
をじ然国乃神乃も亦高のゝるゝ

その跡を訪て方を浴東の山脈に遡て
つまびらかのさまひとしき志を著よ世に一
部の要領と究まる人をして名利の絃歌
をきゝれ方ゝを安楽なるしらん事を
知へきたるたまの人もてあそぶへ
ゝんや惟時四海浪さわぎして九品人所
をめぐる王官國郡より同著
まいらせて賞賤男女よろこぶ書とよ
事をこのゝり今志ハ三百年前の草子哉
嘆同時の志あらんれて作者の功人も

りて志ゝ見ゝ則慳窩翁ゝ書ゝ家
の注和て甚志を發明ゝ志ゝ僕も見ゝ
一寛文丙午の年彩註と志ゝし世ゝ
ハ作り記僧踰の罪人ゆゝてゝ今
年ゝ年月事ありて京師ゝの釣りわいと
海の日書を市ゝ閲作ゝ中ゝ比板行ゝ
ゝて文段抄鐵槌湯注諺解の三書を記
て君世ゝ作ゝの述志をたゝめ志ハ文段抄ハ
季吟湯注ハ元隣諺解ハ南部草壽といへゝ
季吟ハ固ゝ世ゝ哲ゝ人ゝ志ゝ

元隆ハ其説ニしたがひ獨該解は穿鑿ちら
ず易を以て心初学の助とちらべし草壽ハ
當世儒学を以て教ゆる学徒解ハ其結
餘ちまて兼好の為世の楊子雲とも
いふべし
寛文九己酉初秋の日尾陽清水春流軒を
治陽の旅館ニ於て作るものなり

此徒統草ハ世人の知るところ吉田の兼好法師ハ
俗名を卜部兼好ハ後宇多後醍醐両帝ニ仕
官ニ出家ニ利益を後宇多院ニ仕て小西氏ハ俗
て俗名を卜部兼好と号す然る後宇
多院崩御の後遁世して洛陽東山吉田ニ閑
居し俗名を改め兼好と呼ぶ也草子の奥
ニ云へふこころくちぶの号ハ世ハ名を隠す
を好めるを云ふ故ニ説行ハ世ハ今吉田
ニ兼好が旧跡あり
△兼好が生涯ハ詳ならず記ニ書かれ或曰弘安
五年ニ出家観應元年四月八日六十八歳にて
卒す高野山西光院ニ今ハ荒れて位牌あり

と云ひ伝ふる墓ハ双器にあるよりして実及ぶにより
て和れ人ハ多くの人ハ茶好の家
集よりひの器ハ茶道ハ
うへさせて
ちきりを花とあそびの器のきてよりあれいこまの茶をもてさうん
△茶好ハ天台ハ学ハ道しー旦儒経を学ひ珠ハ老荘
ハ花を好めふ人なり神道ハ元その家ハ
〳〵其奥旨を知る事ハ奇屋にも来りて其法海
雑芸連歌阿茶好とし和歌ハ四天王と云ふ一者
なり末の集ハ多載ハ多跡も世ハ多ー
△扨此書を仏者ハ讀ハ
儒者ハ讀ハ
者ハ詞花詩歌とうぎりて奇の屋ハ云ひ課をこれ
ふ〳〵茶好ハ心ハいづまれもちいを人の
屋ハ引用ひ珠ハ
す結ハ三教一致とハ畢竟の茶ハ人間常住
の思ひをわかりて無常変易の旨を観ー一神
をあがる者なりされハ説去流来ところ
海ー なりしかを志をいそし金神仏ハ人ー
吾恵二門の外かー吾を勧恵を懲ハ海ー
ばいつまを是とーいつまを非とせんやうぶを
一偏ハ泥へ〳〵
△徒然 許氏ハ説文ハ徒ハ空也と澄を然ハ助辞ハ
又真名ハ伊勢物語ハ徒然とあり是空の字れ

繼よ吟里遠きさと計りなれてハ此草子の
味あさ一芳よりあるべし或ハ友し向まね獨居或ハ
山林ふどの人自希なるを不をさして云へり是ハ
あるべきさす太平記の時分を考ヘハ六十餘州悉く
さられてをとしてハ父よ背臣としてハ君を殺さる世
をとハ世間よ兼好ゝ交ばへき友なくして吉田の山中
よ世をのがれ獨樂しとふ此草子をとるき影
ばり然をハ世間よ對しての徒然なりを紙周易よ
寂然不動と云へるかををしてたとへハ市町
よ住ても世間よりをあるハ是則徒然なり
△扨此發端よつをくと書おしてふ兩字をとりて
題号したとへハ論語の學而為政又ハ詩經の関
雎葛覃此類なり

△草ハ草書草案なとを云て下書此者なり漢書の
注にも創造を曰とるを六色又草案ハ心なり謙遜
乃字なり

兼好系圖

○大織冠鎌足―意美麿―清麿―諸魚―智治麿―白良麿―豊宗―好眞―兼延―兼忠―兼親―兼政―兼俊―兼康―兼貞―兼茂

- 兼茂 ― 兼名 ― 兼顯 ― 兼雄（民部大輔 後五位）
- 兼茂 ― 兼直
- 兼顯 ― 兼好（左兵衛佐 以俗名為法名）
- 慈遍（大僧正 南朝詔）

源氏須磨ノ巻ニ少シ〳〵ナル心ニ〳〵ノ紙ヲツキウ、手習ヲレタリトアリ

此等ヲ本トシ書出セルモノナリ

ヨ〳〵 任ノ字ナリ打ヲカセテノ義ナリ文章ノ字

すぐつまにしひく 幾日モイタヅラニ送レハ魂ヨリ外ノ友ナキニヨリサレムカフノ義ナリ

沉存中ガ筆談ノ序ニ兼然ノ稿ヲ取テ筆談者唯筆硯而已トアリ是筆談ナリ

そこことゝ ソコトモナク也ハカハ財語ナリ

ニヽニヲ又義ナリ

あやしうこそ 奇怪ナリ右何ト定リタル事モナク心ニ思ヒヨリテ次第モナク書付ケ何トヤラン物アヤシク狂人ノ言ノ如ク思ハレトナリ謙退ナリ

いてや 万葉ニ先ノ字ヲヨメトアリ發端ノ處ニヨク字ナリ百人一首ニ大貳三位有馬山イナノサヽ原風吹ハイテソヨ人ヲ忘レヌ

ふるうくへき 此世ニ生レ出タル人分〳〵相應ノ願ヒタカラ〳〵ナリ

ぶるまくるをまくるまで

幾日モ一ツヲ二明ル暮スト也

すつるはひ

義ナリ

てのおくはひ 心ハ如明鏡万境立ナリ来ル也

ゆくゆくとあくうとこそ 東表モナキ事也謙退也

府也盡字ハ清用

とあくうとこそ

ものうらを 是迄一部ノ意也

ものうらを

いてわ 此世ニ生レ出テハ稀カラ〳〵カラ

べき事ヲ

みとせ

ゆくゆくはい

ヤ　コトナキ人ノ御事ナレハ
イトモカレコレト詞書テ手ヲ付ヌ所尤文
章ノ手本タルベシ　辭多ケレハ却テアサク
竹園　親王ノ御事ナリ　梁孝王ノ親王ヲ
三百里ニ竹ヲ好ミ植玉ヘリ是ヲ竹園トヨフ
親王ノ事ニ用ルナリ
異朝　異朝ノ事カリテ本朝ハ神國
ニテソノカミ天神地神ヨリ人王ニクタリ玉ヒ神
武ヨリ今ニ至リテ絶ス御位ナレハ尋常ノ人
ノタグヒナラヌトナリ
一の人　職原抄ニ執柄必當ル一座ノ宣旨ノ
故ニ云ヲ一人ト云ヲ　攝政關白ノ御事ナリ
まうけり　更也各別ノ義ナリ上ニ天子ヲ
云ニ依テ次ニ攝政關白ノ事ヲ云ヘリ
とりもり　隨身ナリ本府ノ隨身ト云ヲハ
御被ナケレハツルヽヲカヲ凡ソ警固ノ爲ニ
召連テ禁門ヲ出入スルソノ隨身ノ發ル
處ハ聖德太子ノ守屋ノ逆臣ニヲソハレカ
ヘ玉ヒ甲斐ノ黑駒ニ乘レ落サセ玉フ時奉
河内　人御身ニ隨ヒ供奉ニ奉カケルヨリ始ルトヨフ

最增上也　嬪妃也　書クヤサシ
ヒ義ナ
その子　孫ノ字ヲヽゴト訓スルハ惡シ真子
トヨテヽゴトヨメハ子ノヽヽ孫ノ字ハムヽゴト可訓
座子ト云ヒ也子ノ生ル子ト云心ナリ
法師ばかり　ハカリハホドナリ凡ソハカリ上ニ
処ホドヽ云ニ叶フ処多シ
有明ノツレナク　三ニ別ヨリ曉ハカリウキモノ
此ハカリ上云処モホドノ心ナリ
清少納言　清原元輔カムスメ一条院ノ皇后
ニ仕テ紫式部同時ノ者ニテ詩哥ニ達ル女
ナリ清少納言カ書ケル枕草子ニイトヲシ
キ子ヲ法師ニナレタランコソ心クルシケレタ
ヤスノヤウニ思ヒタルコソイトヲシケレ
ヨヨ小こと　サヤルヲヅト兼好モ同心ナリ
兼好ハ法師ノ身トシテ何ノ如ヒ此ヲトシテ
ヨヅナレハ此次ニヒタフルノ世捨人ト云ベキ爲ニ
始ニヲトシテ後ニヲクルナリ是文章ノ抑揚ナリ
ことはり　法師ハ尤俗緣ヲ離レテ
對下石上ノ古　孫ニテ是ヲ子ヲ子ヲ

ナルニ威勢アリ、ノ時ニアヒノ、ニリタノ侍ヨ
〳〵ヨカラズト思ハルヽナリ

増賀 元亨釈書ニ、増賀、平安城人、諫議大夫橘恒平ノ子也、十歳父母送殿山興慈恵ニ云、和州多武峯ノ僧也、タトキヒゴリニテヒトヘニ名利ヲハナレテ物クサフシキ体ニテルヽヒケル人ナリ、爰ニ引辞ハ鴨ノ長明カ発心集ニ載リ

ひとつふる 永ノ字又一向トモヨメリ伊勢物語ニ

ミヨシ野ノタヽ名ノミヲクサ深ミカタニツミルヒヒトツフル

是又一向ク

ひとつふの 是ヨリ又法門ノ一ラヲヒテ云ヘリ又ヒタスラ名利ヲ離レ身ヲ安ク樂メル体ハ却テアフヘホシキト頭フ辞ク人ハウヒもちるる海 畢竟本心ノ一ラヲ云ハン爲ニ先ヅ形ノ上ヨリ論シカヽリ

愛敬ノ人ヲ愛スルト敬トノ二ツヲ也、愛スグレハ敬ナキ人ヲ敬スクレハ親ハナルヨキホドニ

ニシルヒヲ云

いとしとハ人くハ塔婆ハ
ゝ事ハいひんやうよ。
名ぞ人くハ。佛乃ハ
おそりたゞうんこそぞん。
ひとつふる世捨人は。
中くあり海ハきる
をうん人ハ海ハ
行跡ノ立居ニテ人ノ上ヲ論ス生付
海のをぢ
あり海ハ
うちいひ
ぞくう

論語卿黨ニ君在踧踖如也与々如也 大全ニ孝経氏曰踧踖敬君至也与々愛君至也敬有餘而愛不足疎也愛有餘而敬不足慢聖人兼者具足蓋莫非中和之氣象ニ

論語里仁ニ曰ク君子欲訥於言而敏於行ニ

愛 敬 言葉ハ君子駐ル処ニ言ヲ多ク言ヲ多ク言ヲ

ばの あいきうそ こえて こゝ ぞふ
ぬ りうなこそ ありうぶ ひと
そ海 り ゝれ めて ゆ と
可愛ノ字ヲ云ヒ愛ノ字ヲ人ノルト訓ス
ぞ性 ゝ ん こそ ぞ ゝ ゝ ゝ べ
スノ位ノ品ヲ生ル付
ゝれ ぞ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ れ
つきこそ ん ハ ゝ ど う。
哭より 哭 に ゝ う さ ん
ゝ ゝ ん。 今云心ヲ云ヒ
是新 ぞ く ゝ
恬也ト訓ス 賀ノ字
ぞ海 ゝ き ん し ぞ こ え る
我ニ一等差降ル人
ゝれば。 ぞ ゝ ゝ り。

ツラザラント利ケテヰクハ筆法面白シ

【えけども】カレコレ度量スルヲカクルトハ云ナリハカリニテ物ヲカケクラブル心ナリ

才智ナケレハ向ヨクラベグルモキナリ

三言色ヲサルヽナリ向ヨリ物ノカズヲセハ益ナリ

【有識】モノシリアリトヨメリ禁中ノ故実

【ワキテ】ヘ知リテ

【公事】ヲホヤケゴトヽヨメリ禁中ノ年中行事ナトヲ指テ云

是ニ一説アリ 如右見レハ有識公事同事ナリ此ノ説ハ有識ニト句ヲ切テ公事ノ故ハトテミムナリ有職ヲ明ラメテ公事ノ

古ハ八ノ鏡手本トナランコソ願ヒナレ也

未知是也否

【御あそび】西茂アリ一説ハ貴人高位ノ御前ヘメサレ月花ノ御遊ニ御盃ヲ下サルヽ時ハ興ナク飲ベキニアラネハ哉痛ム体ナガラ一ツサレウケタルハヨシトナリ 又一説向ヨリ痛ク諫ラルヽ時ハ一ツ飲タルモヨシトナリ

【古の聖】比段先段ヲウケテ真ノ道ヲ知ラヌ人ハ驕ヲ極メテ民ヲシヘタゲ終ニ國家ヲ破ルト戒ヲ云ヘリ古ノ聖トハ唐ノ三皇五帝我朝ノ神武ヨリ以後仁徳ナトノ事ヲ心ニ含テ云

【民の悲】モロコシノ歌ハ四海ノ民ヲ子ノ如クシ玉ヘハ民又君ヲ父母ノ如ニ仰ク也 又仁徳ノ御製ニ

タカキ屋ニノホリテ見レハケフリ立民ノカマトハ賑ニケリ

ト詠シ玉ヒ及ミツキ物ユルシ玉フ政サヘアルニ一向民ノ苦ミヲ不顧ト也

【きらめける】尚書ニ聖代ノ君墓善茅茨不翦采椽不刮ト云

うかうかとすぐるはかなき人の心之まのしまでつげをも

きをいろてぞかれまぎるれ。おりつさき

事ハ海をとしふ文れ道。作文。和哥。管絃

れ道。又有職の。公事れりさ人の饒かりんこそ

いうじろべきれ手なぶとつるうれちりつまき

教れしくて拍子とり。

いう海志うするとのう。

げこまうねりそ男が

よくれ。

古の聖の御代の政をも見てもれ民れ熱国

れそこかろしも気ば

万まきすりとつて

いうしと思ひ。こつわ

せきさ海しうへそ

うるそ。思ふ示すくかん

ゆまて。衣冠より。高車

にいろうこ基にまさつ

ひて用よ。の姿無康をとりて

「かくして」落情トモ又韓ノ字ヲ用ル時ハ又ノ字ノ心ナリ

むる事なかれとぞ。九條殿の遺誡にも侍る。順徳院の禁中の事ども書かせ給へるにも、おほやけの奉りものは、おろそかなるをもてよしとすとこそ侍れ。

「禁中」禁秘抄上下一巻アリ

「順徳院」後鳥羽第三ノ皇子

「奉り物」禁秘抄ニ天子ノ服以下ノ調度ヲ申セ玉ヘル処ニ但シ天子ノ着御ノ物以テ蹟トアリ是ヲ以テ見レハ下ヨリノ貢ニハアラズ天子ノ御服以下ノ調度ヲモ指ス

「色このまざらん男」此段ヲ見ルニ心アルベシ強テ色ヲ好ムハ古ノ聖ノ戒メ也サレドモ夫婦ハ五倫ノ一ツ自ラノ人情ナレハ誰カ色ヲ思ハヌ人アランヤサレハ断テ色ヲ好マヌ人ハ却テ人情ノ偏ナル人トヤ申サンサレハ其ノ好ム処ニ付テ無過不及処ヲ教テ此段ヲ書ルト見ルベシ然レハ初ニハ男女ノ道ノヤサシキヲ述テ終リニサリトテ一向タハレタル方ニハアラズト書ル処此段ノ骨髄ナリ前後ヲ見合テ一章ノ心ヲ可知

「よろづに」いみじくとも、色このまざらん男は、いとさうざうしく、玉の巵の底なきこゝちぞすべき。

「玉の巵」和名集ニ巵ハ酒器ナリ

露霜にしほたれて、所定めずまどひありき、親のいさめ、世のそしりをつゝむに、心のいとまなく、あふさきるさに思ひみだれ、さるは、独ねがちに、まどろむ夜なきこそ、をかしけれ。さりとて、ひたすらたはれたる方にはあらで、女にたやすからず思はれんこそ、あらまほしかるべきわざなれ。

「所定めず」東ニ行キ西ニ来リ

「女にたやすからず」色ヲ好ム人ノ世ニ何ノ思慮ナク我心ヲ女ニ見トレテ是ホド人ヨリタヤスク思ヒアナドラルヽ也是レ色ニ溺ルヽニ依テ也タトヘ親シキ妻ナリトモ心ノ奥ニ備心ヲヘテタヤスク思ハズ思ハル人ハ色ニヨホレタル人ト申サレヌ

「後の世の事」後の世トハ後ノ世トニツナリ先ツ此生ヲ他界ニウツス未来ノコヲ心ニ惡惟レ生死ノ一大事ヲ工夫スルヲ心ニワスレズト云ヘ仏ノ道トハ或ハ看経シ行法ヲ修シ仏ノ道ヲ勉ムルヲ云ナリ今ノ人或ハ一大事ヲ心ニハカケナガラ道ニウトキ人アリ或ハ仏ノ道ニ勉ムトモ死生ヲ忘ルヽヘアリ故ニ此二ツヲ備ヘ知タル人ヲ心ニクヽ思ハルヽト也

後の世の事、心にわすれず、仏の道うとからぬ、こころにくし。

又幸 幸ハイナラズトヨメリ不仕合ナル
コトヲ云ヘリ主人ノ勘氣ヲ受テ地領
ヲ召返サレ農ハ函館ニ逢ヒ商人ハ買主
利ヲ失フ類皆不幸ナリ

怒ることわり 主ニ別レ親ニ離レテヲ先立妻ヲ
失フ類皆怒ニヲ今リ右二ツノ處ヨリ思ヒ立
發心ハ當分ノ血氣ノマヽニ發スニ依テ血氣
サメヒハ又本ノ俗心ニ帰ル

仍ことしかく 玉葉ニ

山里ノ心ニツカニ住ヨキハ向人モナシ待人モナシ

顕基 撰集抄ニ此辞ヲ載タリ 暑ノ罪ナキ
罪ヲ蒙リ配所ノ月ヲ見バヤトテガハレケルト
カ 中納言顕基ハ西ノ宮左大臣ノ孫大納言俊賢ノ男ノ後一条院近習ノ臣
ナリ配所ハ都ヲ隔テ心閑ナル処ニ入月
感アリテ面白カランサレモ左遷ノ身ナレハ心
中不平ナルホトニ此ノ配所ノ月ヲ罪ナキ身
トナリテ見タキトヨヘレモ実ニモト作者同心

我身の一 此作不孝ノ件ヲ無後ニスル去
儒書ノ旨ニ違タルヤウナレ共心ノ及ヘカリ

一面ニ孫ノナキヲ云ヘリ非又凡ノ愚ナル父ヲ
リ一サリテ賢子ハナシトナレハ大凡ノ人父
ヨリハ優モ少リ才藝モシトル者多シ然レハ
家ヲ破リ身ヲ亡ボシ終ニ先祖ノ名ヲケガス
人アリ然ハ悪キ子ノアランヨリハナキガマシ
ナレトモ父ノ父ハ愛ニヲホレズ道ヲ教ヘ又言
行ヲ謹テ父母ノ名ヲ揚ルヤウニトノ作者ノ
深キ心ナリ

中書王 両ノ中書王アリ爰ニ引ハ兼明親王
ナリ又村上天皇ノ御子具平親王ヲモ中務
ニ任セラレテ中書王ト申ス故ニ前後ノ字ヲ
添テ兼明親王ヲ前中書王ト云ヒ具平
親王ヲハ後ノ中書王ト申ス

深夜 太政大臣良房謚ハ忠仁公ト号ス清
和天皇ノ外祖父ナリ深夜ハ所ノ名ヲ云ニ
住ヲ故ニ深夜ノ大臣ト申ス

世絶公卿 一名大鏡ト号ス徳天皇
ヨリ後一条院ニテ十四代年暦百七十五
年ノ間ノコトヲ載ス本朝ノ記録ナリ故ニ
忍業ガ書ケリ

我分ハ 無二人ハ子アリトテモ若シ子ガ不肖ナル
ガ一ツ世ニ出ハ家ヲ破リ身ヲ亡ボスヲ
輕重ニ依テ配當ノ人ヲ置所ナレハ云也

我分ハやんごとなくてもんこと。
にも。なりて。数ならぬ。
みを。子と。いふものなくて。
あるを。中書王。九條殿。
政大臣。花園左大臣。
曾孫。
絶えぬ。深夜のおとゝも。
子孫。たえ。せぬ。
世。
のたくまし

聖徳太子　用明天皇第一ノ皇子厩戸皇子ト豊聰耳ノ皇子ト申シ

ふてほうせ　ハ存生ノ時ニ河内国名河郡シナガノ山里ニ逆修ノハ墓ヲツカセ玉フ今河内ノ国上ノ太子ト云処ナリ

こうと切　太子ノ墓ト云ヒ此ノ処ヲ必断彼処ヲハ必切トヲ　爰ノ断切トアルヲ墓ノ大ナルヲ破レルヲ也ト云ヘハ如何アルベキヤ是ハ墓ヘ詣ル爰ノ道ヲモ断テ彼ノ道ヲモ切レ我カ子孫アラセジトナレハ子孫ナケレハ墓ヘ詣スル道ヲ断ツトノ玉ヒレ一ナリ　太子ノハ墓ヲ見テ此ノ説ヲ可考

あくい野　ヒアダナル野ト云ヘ所ニ鳥部山ト対ニセタルハタレカニ名ヲ見タキ処ナリ　今嵯峨奥愛宕ノ麓ニ化野ト云墓ヲアリ

鳥部山　東山ニアリ　扨モレ人間世ノ尽ル時無キモノナラハイカニアラン世ニ無常変易ノ世界ナレハ或ハアダシ野ノ露ト消ヘ失セ或ハ鳥部山ノ煙ト立去ル也然ルニ路ニ不消煙モ

[illegible]

[illegible]欲心仏ヤ[illegible]間ノ[illegible]ヒ知ラヌ[illegible]

冤席世ハ其ノ定メ無キコマイミジケレト也

[illegible]

蜉蝣ニ渠畧モ古也朝生ノタ[illegible]

死ト云ヒ一日ヲ一期トスルナリ

夏の蟬　春ノ蔦トヨメハ夏ノ蟬ト可讀

春秋とをくれぬ　四季ノ中ニ爰ハカリ出テ春秋トヲ知ラズ人間世ヲ心ヲ[illegible]ヒ見ル時カギリナク久シク[illegible]ユルゾトナリ

つゝくと一年を　ツツクト一年ヲ送ルシタルヲ思ヒ斗レハ越ルカタナク也因ニナカクシ

あくとし　扨モ世ヲ貪リアカズヲシキモノト世ハ譬ヘハ千年ヲ経シタリトモ死期ニ望テ思ヒ一夜ノ夢ノ間ノ如クナルベシ

信をくぬ世　トテモ住果ス世ナラハ老衰シテヲ見ニクキ姿ヲ待得テ何ニカハセン　辱多シ　荘子天地ノ篇、寿則多辱ト云ヒ用タリ

[illegible]

[illegible]ものゝ[illegible]ぞ。世継し[illegible]の[illegible]ハいへ[illegible]聖徳太[illegible]の[illegible]墓を。[illegible]てつ[illegible]せ[illegible]ひ[illegible]時も。[illegible]ぬ[illegible]きれ。[illegible]ことを[illegible]子孫[illegible]世[illegible]と。思[illegible]

化野

[illegible]の露[illegible]

[illegible]時[illegible]。[illegible]郡山[illegible]煙[illegible]

[illegible]

[illegible]なり[illegible]。世ハ定め[illegible]

天地ニ生ル人命アル場中ニ美

[illegible]れ。命[illegible]

[illegible]

[illegible]夏の蟬[illegible]秋と[illegible]

[illegible]ぞ[illegible]。一年

[illegible]

長閑

[illegible]や。あ[illegible]

[illegible]思ハ[illegible]千年[illegible]。一

四十 爰ニ四十ト限リテ云タル兼好ノ心ハ 按ズルニ素問上古天真論ニ曰 四八ニシテ筋骨隆盛肌肉満壮 五八ニシテ腎気衰髪墮歯槁 六八ニシテ陽気衰ト云 然レバ人ハ四十以前ハ血気モ盛リ 四十ヨリ始テ老テヲトロヘ行ク 迚モ住ハテヌ世ナレバ 老衰ノ姿ヲ不待 壮年ノ内ニ死ニタキト云ノ願ナリ

人にいで 向ニ 論語ニ及其老也血気既衰戒之在得ニト 若キ時ハ堪忍アレドモ老テハ萬ヲ欲ルナリ

夜の夢の心ちこそせめ。住はてぬ世にみにくき姿を待えて何かはせん。命ながければ辱おほし。ながくとも四十にたらぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ。そのほど過ぬれば、かたちをはづる心もなく、人にいでまじらはん事をおもひ、夕の日に子孫を愛して、さかゆく末を見んまでの命をあらまし、ひたすら世をむさぼる心のみふかく、物のあはれも

めやす 見テ安カラン也 メトミト五音通ズ
かたちをはづる 老衰ニ至テハ形ヲモ不恥
四十 以後ナリ
世ニ出ヘ立出交リヲ加ムナリ
夕の日 或ハ幼少ノ孫子ヲ愛シテハ老人ノ栄ユル末ニテ我カ命ノ幸ヲ見タキナドト云ヘ
あらまし 有リタク願フ也

しらずなりゆくなんあさましき。

老テ血気モ衰レモ知ラズ貪欲甚シク成行

此段ヲ見ル人ハ譬ヘ不幸ニシテ短命ナリトテモ悔ル事不可在也 又老人ノ世間ノ貪ル戒メモ尤ルベキ也

世の人の 此段先段ノ夕ハレタルカクタ六 アラデト云処ヨリ出セリ

色欲には如ず 礼記ニ飲食男女ハ人之大欲存焉 又伊川云淫声美色易迷ト云 誠ニ古ヨリ和漢両朝ニ傾城傾國ノ乱不遑枚挙

世の人の心まどはす事、色欲にはしかず。人の心はおろかなるものかな。匂ひなどはかりのものなるに、しばらく衣裳にたき物すとしりながら、えならぬ匂ひには必心ときめきするものなり。久米の仙人の、物あらふ女のはぎの白きを見て、通をうしなひけんは、

かりのもの 彼ノ香ヲ是ニカリ移シタルナリ
しばらく 暫時ノ間
衣裳 腰ヨリ上ヲ衣ト云下ヲ裳ト云
たき物 実体ナキ物ト知ナガラ
えならぬ 匂ヒモ云ハレズ薫シク殊勝ト云
香イヲ云 出ハ徳ヲ重ヲ戒メシ為ナリ
心ときめく 威勢アルトキハ時ノ字ナリ 河海ニ凡ヶ字ヲヨメリサワグ義
久米の仙人 元亨釈書ニ 和州上ノ郡ノ人也 入テ深山ニ学仙法ヲ 食松葉服薜荔 一旦騰テ空ニ飛過ル
白 脛
通 空ヲカケル通力

婦人以足ヲ踏浣衣ヲ其ノ脛甚白忽チ心染ス心取(乱)遂ニ墜落スト云

【さもあらんかし】人ノ心ハヲロカナルト云ヨリ承テ久米ノ仙人ハ実ノ体ヲ見テ通ヲ失ヒシハ世ノ人ノ自ノ心ヲノミヨハスニ比スレハ尤ナリトタスケテ畢竟色ニハ迷ヒヤスキト云緒ヲ云
此ノ次ノ段ニ深ク戒ム

【女の髪】詩君子偕老篇ニ鬒髪如雲不屑髢ヲ 文選西京賦ニ衛后興於鬒髪ト云 鬒ハ黒クシテ美ナル髪ヲ云 入目ニタテンヨリ 鬒アトハモロコシニモ女ハ髪ヲ以テメデタシトスル也

に手あしはだへなど（膚）のきよらに肥あぶらづき（脂）たらんは。外の色ならねば。さもあらんかし

女は髪のめでたからんこそ。（愛ノ字之黒クウツクシキ髪ヲ云）人の目たつべかめれ。（人品ノヤウス）人の程。（心栄トカク心ノ動ク処ナリ）心ばへなどは。（詞心ノ云ハセル）ものいひたるけはひ（日本記ニ形貌ヲ…）にこそ。物（男ヲ指）ごし（障子ナド）にもしらるれ。（其ノ人品ノ善悪）ことに（諸事ニ触テ）ふれてうちあるさまにも。人の心をまどはし。すべて（都テ）女のうちとけたるいもねず。身をおしとも思ひたらず。たふべくもあらぬわざにもよくたへしのぶは。たゞ色をおもふがゆへなり

誠に愛著（恩愛）の道。その根ふかく。源とをし。六塵の楽欲おほしといへども。みな厭離しつべし。其中に。たゞかのまどひのひとつやめがたきのみぞ

【六塵】眼耳鼻舌身意ヲ六根トシ色声香味触法ヲ六塵トス六塵ハ此方ノ六根ヲ触レ処ニヨツテ心ヲケガスニ依テ六塵ト云○右六根ノフルヽ処ニ依テ本心ヲケガスニ依テ六塵ト云 六ハ志ノアル人ハ厭離スルコトアルヘシサレト其ノ中ニ好色ノ一ツハ上下トモニ離レガタシトナリ

老たるもわかきも。智あるもおろかなるも。かはる所なしとみゆる。されば女の髪すぢをよれる綱には。大象もよくつながれ。女のはける足駄にて作れる笛には。秋の鹿必よるとぞいひ伝へ侍る。自（自ノ字眼也我ト心ヲ制スル）らいましめて。おそるべくつゝしむべきは此まどひなり

【大象】大威徳陀羅尼経ニ乃至以女人髪ヲ作ル縄維トス香象モ能ク繋ルト云ヘリ此古事ヲ用

【作笛】女ノ屐ニテ作ル笛ニハ必ス鹿多ク寄ル故ニ今モ狩人ハ用ルトゾ

家居のつきづきしく。あらまほしきこそ。かりのやどりとは思へど。興あるものなれ。よき人の。のどやかに住なしたる所は。さし入たる月の色も。一きはしみじみと見ゆるぞかし。今めかしく。きららかならねど。木だちものふりて。わざとならぬ庭の草も心あるさまに。すのこ。すいがいのたよりをかしく。うちある調度も昔おぼえてやすらかなるこそ。心にくしと見ゆれ。多くのたくみの心をつくしてみがきたて。からの。やまとの。めづらしく。えならぬ調度どもならべおき。前栽の草木まで。心のままならずつくりなせるは。見る目もくるしく。いとわびし。さてもやは。ながらへすむべき。又時の間の煙ともなりなんとぞ。うち見るより思はるる。大かたは家居にこそ。ことざまはおしはからるれ。後徳大寺の大臣の寝殿に。鳶ゐさせじとて縄をはられたりけるを。西行が見て。鳶のゐたらんは。何かはくるしかるべき。此殿の御心さばかりにこそとて。その後はまゐらざり

「つきづきしく」次々シク。今云ツキヅキシキ

【かりのやどり】人生七十古来稀ナリ。一世ハ夢ノ如シ。然バ家ヲ飾ルハ無用ノ事ナリ。尤又ツキヅキシク作リナスハサモアルベキ事ナリ

「枝ヲタメ根ヲカクメナドセヌ草木ナリ

「琦瑛ノ字ヲ文選上林賦ニキラキラト訓ズ。注ニ明珠光也

「身ニシミテ愛セラルルナリ

「簀子。竹椽ナド

「透垣ハスキマアル垣

【調度】諸道具ノ事也。小学外篇孔明ノ辞ヲ引ク。其畧ニ曰ク。別ニ無ニ調度一。句読ニ曰ク。猶言レ器

【えならぬ】先段ノ文字トハ違ヘリ

「大和ハ日本ノ器物ナド

「自是悪キ家居ヲ云

「古代ノ風残リテ

【さてもやは】然モ長ク住ムベキカ

「呉融ガ廃宅詩ニ咸陽一火便成レ灰

【寝殿】御殿ニテ。字彙ニ寝ハ堂室也

【西行】俗名右兵衛尉義清。法名円位後改ニ西行一ト。鳥羽院ノ北面ナリカクレナキ歌人ナリ

「家ノ棟ニ縄ヲ張

「後ト別段ニ見ル説モアリ

けると聞侍るに。綾の小路の宮のおはします
小坂殿のむねにいつぞや
なはをひかれたりしかば。かのためし思ひ出られ侍りし
に。誠や烏のむれゐて池の蛙をとりければ。御覧じかなし
ませ給てなんと。人の語りしこそ。さてはいみじく
こそと覚えしか。徳大寺にもいかなる故か侍りけん。

綾小路宮　紹運録ニ性恵法親王ト見ヘタリ 亀山院第十三ノ御子 妙法院門跡ナリ
小坂殿　妙法院ノ御坊ノ名ナルベシ
是ハ人ノ語リシ事ナリ 殺スヲ痛ミテ縄ヲ引カレタルベシ 西行ガ見タル縄ニモ又カワリテ心アル事
此段ハ大家居ノ主ノ様体ノ知ラルヽ事ヲ論ズ。末ニハ又如此ノ事アレバ一偏ニモ得心カタキ事ヲ云ヘリ

神無月のころ。栗栖野といふ所を過て。ある山里に
尋入事侍しに。遥なる苔のほそ道をふみわけて
心ぼそくすみなしたる庵あり。木の葉にうづもるゝ
かけひの雫ならでは。つゆおとなふものなし。閼伽棚に
菊紅葉など折ちらしたる。さすがにすむ人のあ
ればなるべし。かくてもあられけるよと。あはれに見
るほどに。かなたの庭に大なる柑子の木の。枝もたはゝ
になりたるが。まはりをきびしくかこひたりしこそ。
少しことさめて。此木なからましかばと
覚えしか。

神無月　十月ナリ
栗栖野　山城国醍醐ニアリ 宇治ニモコレアリ
モトヨリ山里ノ人倫ヲ離レタル庵室ナレバサコソアリツラン
閼伽ハ水ノ梵語ナリ 閼伽棚ハ華皿ナドヲ据ル所ナリ 仏ニ供スル也 此世ヲ離レテモ住ルハ
柑子　古今ニ 折テ見バ落ゾシヌベキ秋萩ノ枝モタハヽニ置ル白露
枝モタハヽ　枝ノ撓ムナリ

ことさめて　凡ソカノ字哉ト通スルモアリ又疑ダニナルモアリ 爰ハ疑ノ辞也 此段モ同ク人ノ家居ニ付テ主ノ心ヲ知ル事ヲ云ヘバ柑子ノ木ヲカコヒシハコトサメテ覚ユレド 又綾小路ノ宮ノ例ヲ思食バ 此キビシクカコヒタリシモ又イカナル故カアリツラント前段ニアテヽ見ルベキ事也

同じ心ならん人と。しめやかに
物語して。おかしき事も
世のはかなき事も。うらなくいひなぐさまん

同じ心　我ト心ノヒトシク相叶タル友ナリ 孔顔ノ不違如愚
しめやか　静字
世のはかなき　生死無常ノ事
うらなく　裏ニ隔心ナク真底ナル也

うれしかるべきに。さる人あるまじければ。つゆたがはざらんとむかひゐたらんは。ひとりある心ちやせん。たがひにいはんほどの事をば。げにときくかひあるものから。いさゝかたがふ所もあらん人こそ。我はさやは思ふなど。あらそひにくみ。さるから。さぞともうちかたらはゞ。つれ〴〵なぐさまめとおもへど。げには。すこしかこつかたも我とひとしからざらん人は。大かたのよしなしごといはんほどこそあらめ。まめやかの心の友には。はるかにへだゝる所のありぬべきぞ。わびしきや。

ひとりともし火のもとにふみをひろげて。見ぬよの人を友とするぞ。こよなうなぐさむわざなる。文は文選のあはれなる巻々。白氏文集。老子のことば。南華の篇。此国のはかせどもの書る物も。いにしへのはあはれなる事おほかり。

和哥こそ猶をかしき物なれ。あやしのしづ山がつのしわざも。いひ出つればおもしろく。おそろしき

見ぬ世の人 書籍ニハ古来ノ聖賢ノ千万言ヲ載スル上ハ上聖人ハ師トシ下群賢ハ今日ノ我友ナリ是ヲ好ノ一代ノ楽ナリ

文選 梁ノ武帝ノ子昭明太子ノ選スル処三十巻アリ今世ニ行ハル六臣注ハ六十巻ナリ菅家ノ点アリ

白氏文集 唐ノ白楽天ガ一代ノ詩文也七十一巻

老子 老子経二巻八十一章アリ

南華篇 荘子卅三篇ヲ云南華真経ト云ナリ

和哥こそ猶 此段前段ヲ受テ云ヘリ猶ト云字前段文選老荘ノ書モ猶有友ナレ𪜈和哥ハ猶ト云心ナリ

前段ヲ受テ真友ナキ人ハ

哀傷ニ非ス面白キ心ナリ

[illegible]猪ナドヽ云フヨリハ[illegible]ヤサシク云[illegible]

亀山殿ノ七百首 [illegible]「新古今」[illegible]床モヘダテヌ[illegible]菴ナキ

猪のしゝも。ふすゐの床といへば。やさしくなりぬ。この

比の哥は。一ふしをかしくいひかなへたりと見ゆるは

哥ノ体ヲ面白ク云叶タリト見ユレド

あれど。ふるき哥どものやうに。いかにぞや。ことばの

外にあはれにけしきおぼゆるはなし。貫之が糸に

詞ノ外ノ意味深長ニ

心ボソク思フト云ヨリ来ル[illegible]依テ別ルヽ上云

よる物ならなくにといへるは古今集の中の

今ノ哥ヲ古クアレハ[illegible]

延喜五年紀友則等ニ[illegible]選ス

哥くづとかやいひつたへたれど。今の世の人の

[illegible]

よみぬべきことがらとは見えず。その世

の哥には。すがたことば此たぐひのみ多し。

此哥ニ限リテカク云ヒ立ラレタルハ何トモ知難シ

貫之

五位上土佐守 孝光天皇ノ御末紀望行ガ一男従五位上土佐守 哀ニ引ク哥ハ古今ノ九巻羇旅ノ部ニアツマヘカリケル時道ニテヨメル 糸ニヨル物ナラナクニ別路ノ心ボソクモ思ホユル哉

源氏物語

総角ノ巻ニ 紫式部ガ作也 哀ニ引ク所 物とはなしにとぞ世がたりのもれをとりて[illegible] 源氏哀ノ哥ヲ引用トテ物ナラナクニトアル物トハナシニト云テノ書キヨウハ詞ヲイヤシク思ヒナルカトナリ

新古今

元久三年ニ依後鳥羽院勅ニ定家家隆有家通具選之

残る松さへ

祝部成仲 冬ノ来テ山モアラハニ木ノ葉フリ残ル松サヘ峯ニサビシキ 此哥ハ古文前集ニ淵明ガ詩ニ冬嶺秀孤松ト云詩ノ心ナリ上句ノ詞ツヾキクダケタルヤウニ聞ユルカトノ先達ノ判也 衆議判 和哥不審ノ寄合テ哥ノ秘判ヲスルヲ云ナリ

家長

左大臣ニ明云十代ノ孫従四位下右馬権守家長也後鳥羽院ノ御時和哥所ノ開闔タリシ人也 開闔トハ其和哥所ノ役ヲアナタテヲスル役也故ニ時ノ記録ヲかく

哥のよしあし

西行ガ哥ニ 末ノ代モ此ナサケノカハラズトミシ夢ナクハヨソニ聞カン 新古今集云西行熊野ニマウデヽアリケルニ夢ニ アレヲモ見ヘケドモ此コソ末ノ代ニモカハラヌ物ニハ アレ此哥ヲヨムベキヨシ別当湛快三位俊成ニ申セト見テ驚キナガラ此哥ヲヨメリ 叔父ノ心西行ガ哥ノ古ニカハラストヨミ至タレとも

かくいひたてらるゝも

しりがたし。源氏物

語には。物とはなしにと

ぞかける。新古今には。残る

松さへ峯にさびしきと。

いへる哥をぞいふなる。

まことにすこしくだけた

兼好も同じ心にて

るすがたにもや見ゆらん。されど

此哥も衆議判の時よ

ろしきよしさたありて。

兼好ノ不知古ノヤウニハ無キ者ヲトく云リ後成恩寺殿ノ注アリ非未催馬楽ノ謡モノヲ記ス

梁塵秘抄 八雲御抄ニ後白河院ノ御作ト

○梁塵 杜氏通典ニ漢ニ虞公ト云者アリ音ヲヨクウタフ虞公声ヲ発スレハ梁ノ塵ヲ起ト云此故事ヨリ音ノ謡ヲ梁塵ト云

○郢曲 郢ハ楚ノ都ナリ文選ニモ有歌郢中者ト此故事ヨリ音曲ヲ郢曲ト云ナリ

後にもことさらに感じ仰下されけるよし。家長が日記にはかけり。哥のみちのみいにしへにかはらぬなどいふこともあれど。いさや今もよみあへるおなじ詞。歌枕も。昔の人のよめるは。さらにおなじものにあらず。やすくすなほにして。すがたもきよげに。あはれもふかく見ゆ。梁塵秘抄の郢曲の言葉こそ。又あはれなることはおほかめれ。昔の人は。たゞいかにいひすてたる言ぐさも。みないみじくきこゆるにや

いづくにもあれ。しばし旅だちたるこそ。めさむる心ちすれ。そのわたり。こゝかしこ見ありき。ゐなかびたる所。山里などは。いとめなれぬことのみぞおほかる。都へたよりもとめて文やる。その事かの事。便宜にわするななどいひやるこそをかしけれ。さやうの所にてこそ。よろづに心づかひせらるれ。もてる調度まで。よきはよく。能ある人。かたちよき人も。常よりはをかしとこそ見ゆれ。寺社などにしのびてこもりたるもをかし

もてる調度 平生ハ結構ナル自由ナ物ナドモ旅ニテハ一入重宝ニ覚ユルナリ

能ある人も 同シ心ナリ藝能アル人モ旅ノ所ニテ寶トアラハルヽナリ

寺社 旅ト云ヨリ受テ又寺社ニシノビコモリタルモ常ニ替リテヨカレとく

此段モ前段ノ心友無ヲ歎ソ其ヨリ上ツハケテ必ス友ヲ求メズ共如此ノ樂有ト云顯ス

【神樂】神樂ノ起ルコトハ天照太神天ノ岩戸ニコモラセ玉ヒシ時天鈿女命ノサキノカツラヲ其ノトシ舞玉ヒシヨリ發レリトソ愛ノ神樂ハ内侍所ノ御神樂ヲサセテ云ナリ

【笛】漢武帝ノ時丘仲カ所造ト云

【篳篥】通典ニ云本ノ名ハ悲篥出胡中其声悲

【和琴】一名アヅマゴト昔ハ神代ニ弓六張ヲ並テ引モヲ後ニ琴ニ作リテ六絃ヲカク諸樂ノ嵩頭也

神楽こそなまめかしく（ユウナルカホソメタル詞）おもしろけれ。大かたものの音(ね)には笛・篳篥(ひちりき)。つねにきゝたきは琵琶(びわ)・和琴(わごん)。

（山寺ハ徒然ナルベキ事ナレド内外ノ塵労ヲ掃フ二條ニ感心生スル故ニ）
山寺にかきこもりて仏につかうまつるこそつれ〳〵もなく心のにごりもきよまる心ちすれ

（上下ノ人ヲ指）人はおのれ（多カラ）をつゞまやか（約ノ字ハ一切ノヲ倹約ニスル事ヲ云）にしおごりを退(しりぞ)けて財(たから)をもたず（財ヲ好ム者ハ必ス世ヲ貪ルナル）世をむさぼらざらんぞいみじかるべき。

【富】富ハたからもちなり孟子ニ為富不仁為仁不富トアリ如此仁人君子ノ無官無位ニシテ貧キヲ云

【許由】荘子ニ堯王ノ天下ヲ譲ラントアルヲ嫌テ隠ルト記ス又高士傳ニ隠箕山ニ手ヲ捧水飲之人遺一瓢得以瓢飲飲訖テ掛樹上風吹ヲ歴々作声尚以為煩遂去ヲ

【なりひさご】瓢ノ字ヲヒヤウタントヒ心得失リ説世是ハ瓢簞数空ニト云詩ヨリ名アリ也瓢ヒサコ簞ハ竹ノ籠ナリ

【むすびて】手ノ内ヲクボメテ水ヲ入テ呑ムスブト云千武陵ガ詩ニ掬水ヲ月在手ニ

昔よりかしこき人の富(とめ)るはまれなり。もろこしに許由(きよゆう)といひつる人はさらに身にしたがへるたくはへもなくて水をも手してさゝげてのみけるを（一切ミヨリ人見テ）見てなりひさご（瓢也和名ナリヒサコ）といふものを人のえさせたりければある時木の枝にかけたりければ風にふかれてなりけるをかしがまし（カマビスシキ事　發助語）とてすてつ。又手にむすび（掬）てぞ水ものみける（イカホトニ）

晨 家未曰ノ孫晨字ハ元公家貧ノ繕席爲業明詩書為業兆切曹冬月無
[illegible]葉一束暮眠朝牧

[illegible]ノ人 唐ノ人是ヲヨキ思ハヒニノ記トヽメテ置ケメ我朝歟如此ノ人ヤリモ却テ
在人ヤウニ笑テ後ノ世ニ語モ不侍ヒトリ

朝ぼらけ
あけぬるかとみるまでに
たのもしかりし
きりぎりす
なくこそ
きこえぬ
あきのはつ
かぜ

つゝ此段源氏物語草子ヲヒカヲ稜ノ巻ノ詞ヲ云結ヒ
向ヲカヲ
秋ノそらのさし 或ハ刘禹錫ノ詩ノ秋ノ蟬暮
朝 又万葉ニ
花モ見ズ紅葉ヲモミズ音ヲ聞ク人ニ秋ハ
ヒトリ
兼好意ハ必ス春

必ス秋ト限ラズ四時モノ毎ニ背ノ
面白キト云ヒケレ先春ノコヲ云出ス

きりぎりす
なくこえ
きけば
ものの
あはれ
は
秋
の
ゆふぐれ

鶏上ノ説ノ如ク都ノ鳥ノ時ト見ル
長閑

ながめ
やる
ふる
ひ
の
ゆふ
ぐれ
は
垣根
の
草
に
ぞ
ま
ず
ぬ
ぬ
ぬ

昔コモ果ヒ出ラルレトク

梅ノ香　梅ノ花アカス色香モ昔ニテヲナ
シ形見ノ春ノ夜ノ月

吹のきぶ　ブキフ此二色ヲモシロクノ云ナセリ　和泉式部ノ見テモ折ラボツカナキハ春ノ夜ノ霞ノ中ニサヘ花浪

つゆきさま　春

灌佛　四月八日ニ行ハルル是ヲ佛生會ト云
推古天皇ヨリ始ハル釈尊天竺倶毘羅城
ニテ生レ給フ時天龍水ヲクキ奉リシフク

桑の比　加茂ノ祭也四月中ノ酉ノ日行ル

欽明天皇ヨリ始ハル此日人ハ葵ノ葛ヲ髪
人の髪　花ヲタヨリニ向来シ人モ今ハ

花モ千リテ若葉ナレハノ花ノ若葉ニ覚
ヨリ其人恋シキトノ詞ハ是ヲ古今ニ躬恒
我宿ノ花ニカヲフニクル人ハチリナシ後ヲ恋シカラ
トヨメハ人ハ躬恒ヲ指上云ヘ唯タ花ナシニ
見タルガ可ク

五月あやめ　拾芥云五月四月主殿
寮葺内裏殿舎菖蒲ヲ又弘仁式ニ云五
月三日平旦ニ菖蒲艾花ヲ上南殿ノ前ヲク

ふくろの早苗とかつろ。
ふくろ　ふくろ　ふくろ　ふくろ
ふくろ　ふくろ　ふくろ　ふくろ
ふくろ　ふくろ　ふくろ　ふくろ

トアリ

水鶏のたくなる心そそ
そそ　そそ　そそ　そそ
そそ　そそ　そそ　そそ

きゝ嘉よ。ダクかのちろ
ちろ　ちろ　ちろ　ちろ
ちろ　ちろ　ちろ　ちろ

1源氏タ顔ノ寒ノ心ヲ用ユ

あやしなり。六月後又あ
ミトノ月　ハツ　水無月モヲク此月水泉ニ結ル故ナリ

六月後ハ天武天皇ノ時ヨリ始ハル悪神ヲナダムル故和雑後ニ云ヘリ河原ニ五十ヲ
後ヲスルナリ此六月後ニ三月ヲヨメルアリ其ヲ定家卿ノ注ニ必ス晦日不限六月河原ニ出テ臨後又
納涼及ヒ祭竹ノ遊アリトナヘ六月ノ比ノ月ニモ後アルベシ但シ大後ト云ハ六月晦月ノヨシ公言ノ説
源ニアリ

七夕まつるこそ。あまつ
七夕祭ニ又乞巧奠ト云ナリ天平勝宝ノ比ヨリ始ハル公事根源ニ御殿ノ庭ニ机ヲ置キ色々ノ
物ヲスヘタラ井ニ水ヲ入大空ノ星ヲウツス由アリ　今日五色ノ糸ヲ竿ニカケテ手向ノ手カヒノ糸ト
云ヘリ
又夏文類聚ニ六京師ノ旧俗初七ノ晩ニ貴家ニ多クハ結彩楼於庭之謂乞巧楼云ヘ

けり　是ヨリ秋ノ名ヲ云ヘリ

ちろ　ちろ　ちろ　ちろ
ちろ　ちろ　ちろ　ちろ
ちろ　ちろ　ちろ　ちろ

月ノ比　月今ニ中秋ノ月鴻鴈来

萩の下葉

色づくわどの日さ田うりあつめ
するとの妹のそをかの野
[風ハダレトシテ野草ヲ吹分キ依ア秋風ヲ[illegible]上ニ]
[文[illegible]]
れあーしこそ
れ。いひつくれべそ
ちどにつかまつれと。あるーことよ
[日ヒテ云フ上云法度モナシ]
そ[illegible]とるをあらぶ。おもしきさつといそぬ。暗つく
[助語]
[三恩ヲ[illegible]ヲ云ハチハ]
[曾中 葬ノ殷ノ[illegible]ヤウナル]
あらくはさられ。年に海つ
[無為ノ字ヲヨメリ 日本紀]
せつ
手ス廿三日ヲ廿三十一云ヒテ九ヲ廿三ヒリ
さひるそ。いやをとつべきこ
[サニカタ[illegible]ヒ云ヒ]
書キキリスメルヘ又且ツヤリスメルモ
ものるしば。人のこそ
[此文古ヲ他人ノ非[illegible]見ル]
[草木ノ枯零ヲ云]
[長ノ字ヲ衛ノ又頗ノ心ヲリ]
[是ヨリ冬ヲ云]
ものさにもあらぬ。さて冬は枯れ草
れこそ。梅ま
はさくをとふ海ぶ[illegible]れ。行し草
[此ヒ]
[見ル水ヲ云ヒ人伊[illegible]]
利とく海りて。[illegible]いと去ろ紅葉のも
[illegible]ようをけつあーしーけ[illegible]

[illegible]ろ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
人ごにいそぎあふ此ぞ。
[無三無三心]
まちあくあれるす
[源氏三モ師走ノ月ヲ冷トアリ 枕草子ニモ冷キ物ハ走ノ月ヨリ]
さ海ぶき拙すて。ぬる人心
[illegible]
める。廿日あまつの空こそ。ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]の前の

佛名 十二月十九日ヨリサ一日マデ三ケ日行ハル是ハ三世ノ諸佛ノ名号ヲ唱テ罪ヲ滅ル心ナリ

宝亀五年十二月ヨリ始ル

荷前 十二月吉日ヲ選ミ十陵八墓ニ年ノ終リニ幣帛ヲ奉ラル使ハ公卿殿上人也

十陵
- 山階 天智天皇。田原 光仁天皇。柏原 桓武天皇。八嶋 崇道天皇。深草 仁明天皇
- 後田原 光孝天皇。後山階 醍醐天皇。宇治 贈皇太后皇。中宇治 贈皇太后皇。今宇治 贈皇太后宮

八墓
- 多武峯 鎌足
- 愛宕 護忠仁公
- 墓野 仲野親王
- 後葛野 當宗氏
- 宇治 昭宣公
- 小野 藤原高藤。後小野 宮道氏
- 後宇治 班子仲野親王女

[illegible]ろ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

繁く喜れいそ紙りとりかさねて（催）ものこ
れちるくさ海ぞいそ（行）追儺より

追儺 ナヤラフ庭ヲニヤラヒ庭ヨムナリ十二月晦日ナリ追儺ト八年中ノ疫ヲヲヒハラフヽヤラフ
トハ追上云詞ヽ儺ハヲニ也今夜殿上人御殿ニ立テ桃ノ弓葦ノ矢ヲ以テ鬼ヲ射ルナリ
方相氏四目アル面ヲキニノ手ニ楯ヲ持ツ又倆子上ノ二十人紺ノ布衣キタル者ヲ具シ内裏ノ
四門ヲメクル也文武天皇慶雲二年ニ初ル此年百姓多ク疫ニナヤマサレシニ依テ也
追儺ノヿ周禮論語等ニモ見ヘタリ

四方拜 ヽ事根源ニ元正ノ寅ノ時ニ天皇
屬星ヲ唱ヘ天地四方ノ山ノ陵ヲ拜シ玉ヒテ
年災ヲモ宝祚ヲモ祈リ玉フニヤ此ノ何代
ヨリ初ト云ヿ不分明

かして。英すぐるまで
れきて。何年あり
て。あしとそ海ぞ

（イヽガハヽク歩ク体ヽ源氏ニモアリ）

（繁）（元日ニリノ公用ニトリカサネテ）

（疑ノヒ非ス決メシヽ）

（明ハ元旦ニ六）

（俗中ノ商人ナリ体）

音ちくなりゆるそ。年
人のくらゆそおさつる

（俗ノ詞ト云ニカケテ）

おしつる おハ魂魄ナリ聖霊ヲ祭ル義也
今ノ世ニハ七月ノ三限リ昔ハ極月晦ニモ
祭リタルト見ヘタリ 曾祢好忠
玉祭ル年ノ終リニ成ニケリケフニハヌヤ人シトスラン

れなりしかくて
松らて

（敵）

松ヲ立ルヿハ蓋盤内傳ニ巨勝カ墓
松ニ云 説アレ庭其ハ不吉ノ例也唯松ハ十廻ノ春
上テ百年ニ一度花サキ千年不変ノ物ナレヽ其ヲ
祝メ年ノ初ニハ立テ初ノ物ナラン
○此段春ヨリ云發末ニ又春ニ立ル処尋常
人ノ及ブ処ニ非ス是ノ一段ヲ常山ノ蛇ノ首尾
相スクフト注セラレシハ尤ナリ
世乃ゆゝ 世のゆゝハ妻子眷屬ノ重
類多キ身ハ我身上云ヘ庭自由ナラズ狂ホダヲ
ホダガ如ク也 古今ニ

（ニテ年モヤ比限リノト思ハ）

（天地ノ気変ズレハ人ノ気モ変ルヽハ改リ是年始メテ年モ如此）

（俗中ヲ云）

（貴賤サヽメキ）

名ぬもんかそ
松
ものよりう
ものこ
ものこ
ものこ

ミノウキノ見ヘス山路ヘ入ラシ思フ人コノ変ニ成ケレ

人の世もよそぐ[何某]とやいひし世捨[ヨステ]

[鉄モ羈ヒ]

[持ス身ヲ]

そそきといひてそ海ともにさてを笑てぬべられ

此段前段ヘカケテ見ルベシ妻子眷属ナキ身ニ名誉ノヲロヘキ者ナキハヅナレトモ四季ノ移変スル毎ニ空ノ名残ノミヲヲシミレハ右ト同心ナリ此世捨人ヲ長明ヲ指上云説アリソレハ文文記ニ一期ノタノシミハウタヽネノ枕ノ上ニキハ二リ生涯ノ望ハ折ヲリノ美景ニノコレリ上云

[付字]

[ヒ]

[シ]

[ヒ]

[ヒ]

[ヒ

つゆ　ふるまくさもむすばれ

人さま　玄賓僧都ノ所ニトヅ四ハ水草キヨミコトシレゲニ都ノ内ハ住ヌ、サレリ爰ニ此辞ヲ用ヒ
トヅ四ハ外国ノ爰ニ外丞トハ用ヲ彼ノ寺ノ水草キヨミト云ニテ洛陽ヲ離レタル外国ノ心ナリ

何事もつきぬ世のこそ　(当世)　やうは変

(キワメトノ至極シテノ変)　ゆくすえ　ゆくすえ　なりゆ

ゆくすえ　彼木の石のたくみ

世世　兼好時代ハ末代ト云戰国ト云
人ノ虚名ニシテ実アル者稀也故ニ古昔ヲ
シタヒテ云ヘリ

古代のすがた

論語解不解　孔子ノ歎息同フニ消息ノ類ナリ

そだちとしあれ　文のこと　紙ノ三限ラズ

(モトヨリ物ヲ)　(文トモヲ受テシノ三限ラズ)　(枯惜ノ物ノクチヒツルラクシ上云心ナリ)

古どもいとき　きぐ　紙も　もちもとうとき

なりもそゆくあれ　(是ヨリ詞ノアレケヌコトヲ云ヘリ)

いとへ　車もとげよ　火うち

とそひしを　今やうの人は　もてあぐまう

きあぐまとい　(ヒリヤ)　(ヒ)　(ヒ)　(ヒ

朝餉 清涼殿ノ内ノ南ニアリ天子ノ朝御膳ヲ朝餉ト云フ爰供御ヲ奉ル所ノ
あくーの子 爰ハ賤キ者ノ家ニモ有リ又
ベキ物ト云ヒ禁中ニアルハ各別ニ図スルトク
小蔀 禁秘抄ニ殿上六間有小蔀云々
小板敷 同抄ニ見ヘタリ 殿上ノ南面ノ縁ニ
板ノ間アリ是ヲ云ヒトリ
ミヲ巻戸 清涼殿ノ廊下ノ間ニアリ

もめてくてそきこあれ
てそいそぎ孔 御所ノ宝剣ヲフカルニ依テ火ヲ点タヌヨシ
ちゐどいとめてあり 上卿 総奉行フスル人ヲ云ス卿ノ陳ニテ其ヲ知リ頼ニヨリ
あ陳ニさなり 続司の 諸卿ノ座スル所 火ヲ点モセ上云フト 燈ヲ撮ヨリ
百官ノ
ふゆくく 陳ニハ花ノ二ウケト云ヒ秋ハリ
ヲドノヲ、カイトモレ上云替ル詞メヲタニ
ゑさきよもすがら

やしけ不にもありぬべき
小蔀 小板敷 言戸 戸など
数多アルヌ一ヲ不ル
是ヨリ禁中ノコヲ云
いくらもやあるべし あ

内侍所 神鏡ヲ案置セル所ヲ内侍所ト云フ
内侍所ノ鈴ハ半ト替テ引ノヒヲス
紅梅 吉ハ めでたく優なる 紅梅
改大臣ハ花ノ世ヲ見る

斎宮 内親王ヲ天照大神ノ御代ニ定メ奉ラセ玉フ事ハ加茂ニモ斎院上テ此例ヲリ一本ニ
斎王上アル時ハ伊勢加茂ニ云ヒ斎宮ト云ハルガヨシ 斎宮ヲイツキノミヤトヨメリ 代ニノ皇
女太神ヲイツキ奉ラセ玉フ故カ世ニ后ニ立玉フナド云ヘルハ誤リ也 扨皇女ノミヤヅカヘニ玉フ始
ハ崇神天皇ノ皇女豊鍬入姫命ナリ伊勢ヘヲハレヽヽハ垂仁天皇ノ皇女倭姫命ヨリ始ル
狩此事日本紀ニ委シカクニテ代ヘヲ後ニ多院ノ皇女準子内親王ノ後ニ断絶ス
野宮 斎宮ヲ定メ申事皇女ニテモ親王ノ御娘ニテモ定トテウラナヒテ定メ申サルヘ
トナリ 定メ奉リテ二年ノ八月ヨリ明ル年ノ八月ヨリ野ノ宮ニハヽ
アルナリ 花鳥ニ云伊勢ノ秋宮ハ嵯峨有栖川ニアリ加茂秋院ハ紫野ニアリ野ノ宮ノ
源氏賢木ノ巻ニ委ク記セリ

経仏 延喜式第五斎宮忌詞内七言
仏ヲ中子 経ヲ染紙塔ヲ阿良ハ伎寺ノ
尼ヲ草 僧ヲ髪長 尼ヲ女ノ髪長 斎宮ノ
云

やさしくたりてこそきこ
とのうぎりとハ云へ
至極ト云心ヘ
経仏

などいとてなごり深紙ちどころもれてしらべて神
社にそすてぐるを海のしき地の大絆
森にをしきもたぐちぬりむぐきまうてさう
きたいのけうるもというかるぬうとにれうきハ
伊勢。賀茂。春日。平野。住吉。三輪。貴布祢。吉田。大原野。
是ミリ神社ヲ云立ノ秘宝ハ帳 玉ハ廣美ノ字ハ赤垣ハ井垣瑞籬角ハ云ヒリ
松尾 梅宮
伊勢 天照太神ノ御廟也 度会郡 宇治ノ郷五十鈴川上ヲリ
加茂 雷神ヲリ 上賀茂下鴨ノ別アリ共ニ山城國洛陽ノ北ニアリ
春日 四所明神ヲリ大和國三笠山ニ跡ヲ垂レ玉フ
平野 四座 山城國葛野ノ郡北野ノ西 立世玉フ
住吉 四座 摂津國住吉ノ郡アリ日本紀ニ伊弉諾ノ日向國橘ノ檍ガ原ニ玉フ時海底
ヨリ出現レ玉フ三神也
三輪 大和國城上郡アリ大神大物主神也
貴布祢 龍神也山城國愛岩ノ郡アリ
吉田 四座此社ハ春日明神ヲ勧請申也 山城國愛岩郡洛陽ノ東山ニ立玉フ
大原野 同春日ニ山城國葛野郡アリ此山ヲ小塩山ト申也
松尾 七社 山城國葛野ノ郡アリ
梅宮 四社 山城國葛野郡アリ洛陽ノ西ニ當ル
右神社ノ縁旧ハ抄委細ニ記ス事又竹委ニ記キノハ神道家ニ入ル難事
わたり川 飛鳥川ハ大和國ノ名所ニアリ渕瀬
定マラヌ川ガ故世ノ変ジカハルノニ多ク奇
ニモヨメリ 古今ニ 伊勢
世中ハ何カ常アルヒ鳥川昨日ノ渕ハ今日ノ瀬ガ
世ハ
其時ナルモノ多ウラニ去ヌ
さり。たのしきうるとゆきうひて花やのたるう
音ハ繁花ノ地モ時去ヌ今ハ野ノ草ノ花
あうるも人すあぬのうとと成。ヨリ其処ノ名ハ繁ハ人あ
野ノ草ト云又万葉草ノ字ヨメリ
らたありぬ。桃李の花いとへれとあるもの
桃李の花いとへ 史記李廣傳贊ニ桃李不言
下自成蹊 又李白詩桃李不言梅花
フル里花モイフ世ノ花ハ昔ノコトノトハシ
東極ノ法成寺 上三御堂ノ関白道長公
桃李ハ
ん。流して人ぬいう
藁好見及ノ処ヲ人ノ如此賛ケハ昔シ又手ハ
又世ノ歌ノ世ノ琴ノ果ノ花ヲカナリヒハ
へのやんとあるもきん沼

住吉ニ上ホリ
京極殿　拾芥云土御門南京極西東
門院是ナリ
法成寺　五条門東ニアリ
御堂殿　関白道長公法名道規始テ御堂
造立アル故ニ世ニ御堂ト云ヘリ

のこそいとゝそうるはしき。京極殿
法成寺ゆゑどころなりとて志
とゞめ侍りしこと変じにけ
ぬ。海はあれまさる。御堂殿の作みゝ世移ひて。庄
園寺領ハ
ろこ。世のうつりかはるまゝに。我拙ぞうの法門のほうし
いとゞ世もくだりあるべきにこそ。時
大門。金堂ゆゑどころなく海ぞ
金堂　千載集云花ガリニ法成寺ヲ
テ侍リケル金堂ノ前ヨリケル花ノチリヲ
ヲ見テヨミ侍ル　後成

ヲリニケル世ヲ知ラハサクラ花チリノ条ニモ
付
丈六佛　一丈六尺ノ佛ヲ九品ノ浄土ニカタトリ
九体安置セラル
行成　謙徳公ノ孫義孝ノ子也道風佐理
行成トテカクレナキ三筆ノ其一人ヘ
兼行　延久ノ比住大和守南家ノ人也能ク
能登相兼ノ人ナリ

ようつりかはるもあり。寿量
寿院ゆゑどころ。昔の法成寺の形ハ
ようるぞ。丈六の仏九体。いとこと
うとくてあらびたり。海を
ぞ哀なる。法花堂ゆゑどころ
法花三昧ヲ行フ堂ヘ
門まもるあらん。ちはりの
名ばかりぞ法成寺ノ名残ダニ
うつりぬるもあり。善覚
寺ゆゑどころ
是ヨリ兼好ガイフ判メ
ゆゑどころ
ばかりぞ
ゆゑどころ
ばかりぞ
ゆゑどころ
ばかりぞ

未ノイヲ思惟スルハヲロカナルヿヽゾトヽ

風も吹あへぬ古今要ヽ

桜花トクヒヤリヌトモヲモホヘズ人心ゾ風モ吹アヘズ

小町

色三ヘテウツロフ物ハ世中ノ人心ノ花ニゾアリケル

此二首ノ詞三ノ書生世ヒ者ヽ

○桜麦ノ心ハ花ハ風故ウツロフ地ナカ人心ハ風吹

子モ昨日ヽ睦レヒ中モ今日ハ何ゾ障ラレテ賛

上云ハン為ニウツロフ人ノ心ヲ云ヘリ花ニナルヽ上云時ハ

契リレ女ナドヲコメテ云ヽ

なのりひてそ知る人のなかりける

我世ノ外或ハ契レ全何ゾ故障アリテ逢ヒカ又心ウツロヒテ中絶ルカスベアラス世界ヘ行別レタルヤウニ聞リテ

あれ。されば知るきいとのそ

見ヨリ人ノ心ヲ替ルノ古事ヲ入利ニ云ヽ

ちるきく糸

淮南子曰楊子見逵路而哭ス

為其可以南而以西也墨子見練糸而泣ク

之為其可以黄而以黒也注悲其本同而末異

堀川院百首

西度ノ百首アリ初度ノ百首

權大納言公実勧進ヽ麦二引奇モ公実ノ

奇ヽ歎ノ題ナリ此奇モナルル人心カハリレヲ

風もあきあへぬうつろふ人の心は花よりあれて年月を思へばあはれとやいの

昔ノ麦ノ時云カハリセシ辞ノアハレナルヲ感シ思ヒ出ス

古今主呂野川ヨリ上ハ人ノ心ヲ云ヒ人ノ心ヲ云ヒ云ヒ云ヒ

とも業ごとにそれぬるものう。我世のうのふるりゆく

ヨメル奇ナルハ引合ス

むしろうしいもり塩ひ

しきさきさるる事待りうん

御四ゆづり　天子ノ御位ヲ春宮ヘ譲リ奉ラ

ル時ノ節會也　譲國譲位ト云ヒ云ナリ

剱　宝剱ナリ天年羅雲剱ハ又草薙ノ剱也

璽　八坂瓊曲玉也

内侍所　八咫ノ神鏡ナリ

右ノ三種ノ神器ト申ス新帝ヘ渡サルヽ

ナリ三種ノ神物ヲハ諸抄班載ヽ委ク其

家ノ口伝也

とのもりの　此奇ハ朗詠ニ

とのもりのとものみやつこ心ヒスヽ式春ハ朝キヨスナ

ハ式ノ本奇ニメノ御製ナルベシ

トノモリハ主殿寮ノ事ヽ御殿ノ掃除ヲ

職ル故ヽ

とりのこやつこ　主殿寮ノ下司ハ伴氏ヽ

院ノ御所ニテ絵所ニテ

いてたちうぬ花を散ぬ

今の世のことはけきに沒ぎれて。院ノ御所ニテ

おきそさびしけあり。うぶかりうぞ人のこもあら

れぬべき

諒闇の年つもり春たちぬ

天子ノ喪ニ三年モラセ玉フヲ云ヘ

あらば。いろも沖の波

倩庁ノ精進ノ間ノ名リ屋ノ

ちどり。極楽をとさげあれ

ハ倩庁ノ間ノ下

帽額ト木ト兩説アリ

沖の藻をとりて。布のもの

裝束ノ縁色ヲ用

とりそろふ人のこころ

黒ヌリ

愛ハ忌ヒ、キトト云心ナリ

ゆくしき

前ニサカル縋ク

ちりのよ。れもとのうしろ。れ色しさの

そぞろさもあれ。人ちり

定ノ字寝定ルヒ

ひ。ぬりて板。ものこ夜のもさ

手蔵ヘ

ひよ。ものにとなれ。ものもとり。ちりもとめ。孫しとりと

ハ公ケトシテ蔵スルヒキモノ

ちりの見ヘ

たりもふりうぐ。ものど。屋りすつる中よ。ものき人のあ

或ヒキ破リ或ハ下キスツル中ニ

ひ。ものきもひ。ろ人ものこ

徐

其人ノ生テ居ル時ノ

ものこちも

ロ口ノ或ノ字アルハ誤リ也世キ人ニ対ノ人ノ世ニアル人ヘ

れ。此比ものの人の文ってい

ハ又ハ一カ所ル時

ものの年ものりうんと思ふハ表ものそうもあ

ものを。ものの年ものりうんと思ふハ表ものそうもあ

ものを。ものの年ものりうんと思ふハ表ものそうもあ

ハクニ心ハキモ持ツ人ハ死ニ去ニ時モ逝ハ年ノ他ニ移ヘ

ものこ。ものの年ものりうんと思ふハ表ものそうもあ

此段モ前ノ諒闇ト云ニ續テ見ヒ昔ノ志ヒサシカツラヌ

人のおきはものりうんきハなり。中陰のうち山里

人死ノ未来生ノ中間先五陰形ノ故中陰ト云ヘ

四十九日ノ間ハ追善ノ為ニ山里ノ寺ナドニ籠リ居テ

ちとしいろひて。後あ

春屬モ

めて。後は日ごろ[四十九日ノ佛事ナド]

四十九日ノ早ク過ル間

ちやくるふるそどぞ

見ざる早ク過ルハ[ナ]ラヒ[ナ]ク

けあうたびよい[ノ]事

[石山寺ヨリ惣ノ住居]

きちてめちりくらいあきこあれぬ。

山里ハ人モ多ク集リ作善ニ隙ナク夾ハ紛レ方モアリ[ニ今]辭[キリ]テ真人ノ事ヒ只ヒ出ル

へつてそさうにるしまこ事ん

[見ヨリ見ル人ノ心ハ慈ノ心キリ]

[九]殘ル人ヲ視ル詞ヲ忌ヌリ

ぬ事ハあれしこあとめたあいむるることぞるど

いふてを。かそうれちうにねうちとへのんれ行うてそそ

[或ハ[ノ]学ヲ見ル才君ノ妹ノ名]

ちうく

[云ト出テ日本紀ニ多クヨメリ今云ノ[ノ]ク事ハナドノ類ニ]

あるーこ

[アラヲノ口ニテ云詞ニ文集]

アナカシコト云モ　恐ノ心ナルベシ

いたちるこ

[リトヨリ慈ノ人ヲ忌テ死ル人ハカヘラズ幼ノタメニ忌ノ制メル]

[ニ]

[石ノタメニ忌ノ制メル]

[ニ]

[ニ]

[ニ

[illegible]

陳師道が思亭の記に望其木思以為材視其榛棗思以為薪と云

[illegible]てはあらよもせびー松もぞ千とせをきそぐ薪よ

[illegible]ぞうるきつえすれて田となりぬ。甚くこたなよか

くなりぬるぞ。[illegible]

此段次第二変ノ変スル変ラ人ニ教テ生ヲ全スル者貴賤不限皆如此ノ夢幻ノ世ヲ分ト云ヘシ

雪ふれば[illegible]ー朝人のうりいつべきこゝ事あ

[illegible]て文と字とを。雪ふれとなのしいそぐるもの毎

よ。式雪いとみるを。一業のつまりせぬなどのひがくし

うん人の作るを幸ひ[illegible]

はんぬといひてをりて。[illegible]

人ありしかばつれづれもしはれてつ

此段人ハ一言ニ依テ其詞ノヤサシキヲ不忘ト云ヘシ意趣ノ[illegible]ハ真実君子ハ一言ヲ以為智ト云

以為不智ト云

旭[illegible]世[illegible]ある人[illegible]

ありくを[illegible]

せていろのひぬ。あれる[illegible]

ぬ[illegible]

[illegible]て[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人ありといそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

づひとよりべし。そもそも人狂おくうせにそうとき
ゆるす
前段ハ一言ノヤサキニ依テ其ノ言ノ不ル志ト云ル此段ハ又其人ノ業ノ優サルヲ思ヒ出メ言行ノ二ツヲ記メ人ヲ教ユ
今は内裏たちぬまされて。有職の人々よりまさ
けるいづれも難ありとそ。すでに遷幸なれ日ちく
ありきて。玄蕃門院はらんでて閑院のうぢ
閑院 拾芥云二条ノ南。西洞院ノ西一町ニ
ウ。カ。ス 今云火灯口ノ類ヘ火ハカリ
にぞあるとて作られ。いとうるはしく
「根本ノ本キモ長キハツヲ是ハ
はいまて。おそてをきてをれはやまうま
をきたるよりは
此段物ヲヨク見ヲクハ必益アルヲ云
甲香は。ひろ貝はいとうるはしく
甲香 本草ニ曰甲香今医家繕用但合香一家所秘又有大小用小者佳也可聚香使不散。
なり。むかしは金沢といふ所にとりて
ありしとぞ。此へナタリ上云物則甲香ナリ上云フヲ頭スサレ此今ハ金沢ニ
ナタリ上云モナレ上法師此段モ前段ヲ承テ世間ノ誤ヲ知ラシム
ぞ。ものしりぶるきちらすやうにぞ
漢ノ高祖自ノ熟ヲ云ヲ毎上疏宜ク自ノ書勿使人ヲ天子ノ御身ニテサヘ自ラ書モフ況ヤ其ノ餘ヲヤ其ノ上人ノ頼テ書クハ人ノ目見ル処ニ恥ヲ高ケリ何ノ人ノ美ヲカリテ自ノカサリトスルヲ有レ手跡ハ用ヲ可捷カ為也ニ悪ラネ可恥
うちとりてもてはやしもしたるとて。我はかく
音信不通ニナリテ
ぞ。いとうるはしくもあらんと。
向ヒ向ヒ云ハルキ詞キ
思ひたるまゝに云葉なれど。地するこゝろ
向リ我ヲ
なん。仕下。
匂ヒニガミテ常ヲ人ヲウラムル者ニ云ニ
「下郎」ノ字
匂會。男子二十巳下。又一説二十以上卒下。童通。
下者賤也 然ハサヒラ入ニ仕者ヲ云
やあぶひとりもどしぬ。おこ
ヒトリヤヒトタキトメ打トケテノ云ヲクル
せてをとてをとぶらはれ。まゐ人ぞ
向ヨリハ何心モナクテ音信ノ意タルヲ此方ヨリ其
扱ハヲトヅレヌヲ恨ミト
ぬるとも人のとはぬもあるべきまゝなり。
推ノメグラシテ明友知音ノ間
長断ヲ有リ然ルニ不可ニ遇人

朝夕ふそくなくもれうる人の。[変上云説悪ニ何ノ事ノアル時]ひとりもある時。[又是ヨリ常ニ]ふそくなくもれうる人のあるこそ。今さてもくやしきまで

[常ト替ノ訖ト隔心ヲスル体ヨリ]

[常ノ心安ノ云ニ親スハ今サラ如此隔心ニ見ユイヒ]

[素ヨリ]

[論語ニ是安平仲善与人交久而敬ニ]

[又是ヨリ常ニ]

[ヒ]ふ人もあるべきなれどもばかりよくしくうれた人のうらとそ[素ヨリ]たこはあるべきうらとそ[ヒ]ふ人のうちとけうる事

どいひうるうらとそ[ヒ]ひつきぬべし

此段反明ノ交リ来ニハ敬フトヲルニ依テ必ズ絶テ交ヲ故ニ礼儀ヲ以テ可[ベ]交ハ事ヲ云ヲ又礼ヲトハ和ニノ親ニ[ヒ]ケレハ。礼アル内ニテ絶ル処ノ以テ相交ヒトノ教ヘリ 礼記ニ礼勝則離樂勝則流ト云ト同ジ

名利よつられて。[三]

[亦曰ク急ニ南北ニ走リテ]

[名利ヨリ]

[名利ヨリ]

[名利ヨリ

うつれぬ名 変とハ名利二ツの事の内ニ利ヲ求ハハスグレテ愚なる人ノ上云テ次ニ名ヲ求ヨ文云ヘリ 白氏文集ニ龍門原上五ニ埋骨ノ不埋名ノ

ごとものきとをもすぐれ。つとなきを人もあるよ生れ。時ノ仕合ニテ

たゞりをきつもふもるぶ。身ノ字字眼ヨリ上ヨリ用ヒシ上ニ辞位ヲ見カタヨリ

づゝいやしき位よとり。時ノ不幸ノ世ニスル出ハ

次ニとろろ 利ヲ求ニ比スレハ尤勝リタル所 右ノ如ト

ハリナレハ何ゾ官位ヲモ悦ビトセン

官位をのぞむも。次ニとろろ 利ヲ求ニ比スレハ尤勝リタル所 右ノ如ト

世ニすぐれるなれも。時ノ仕合ニテ

人のゆゑをとろろ 某ノ脩ヲ集ル賢ヲ

世ノ人ノ図ヲ悦テ此二ツノ順ヘ世ノ竟皆

ヲ非ルハ人モ共ニ世ノ殘ラヲ是ヲ知ル皆 徒ラ

ヲリ也

世ニとろろまゝ。ヨシ又其人ノ不見所侍同人ヒトヘガ其人ノ全又全速ニ可去

徒をもそ世ニとろろ。ヨシ其人ノ不見所侍同人ヒトヘガ其人ノ全又全速ニ可去

ゆゑ人をもそ。ふ人ごとに

ゆゑ人をもそ。ふ人ごとに

ゆゑ人をもそ。ふ人ごとに

云カラ自然ノ良智ニハ非ス

煩悩 智度論ニ煩悩者能念煩作悩ト云

はゝ〜〜てきし 是ヨリ兼好已カ本意ヲ云アラハスナリ

可不可 荘子斉物論ニ曰ク可ト云フ可不可ト云フ不可ト云フ可ト云フ又曰ク乎可乎不可乎不可ト

是善悪是非可不可然不然曲直邪正一切世間物論ヲ斉フスルノ意ナリ

然ハ可ハ善不可ハ不善ナリ一條ト斉シク同フナリ

ト云フ荘子ノ詞ヲ假テ論ス

まことの人 荘子ノ道遥遊ニ曰ク至人ハ無己神人ハ無功聖人ハ無名

もゝ徳アラハレ

功アラハレ積リ其ノ功モナク

名モナシ

つゝえん是法とうしゝ 徳ヲ見スヤウニ名ヲ見ルヤウニ功ヲ見ルヤウニ守ルハ非ス

境ノ字境介ノ云

善不善

のゝとも

名利

時非なり

世生ノ年盛ノ年衰ノ時非ナリ

或人法然上人に会佛の時 長世ハ長ク生ル

法然 源空也姓漆間氏美作国稲岡人父時国母秦氏長承二年四月七日生年十五後進暦寺功徳院皇圓判落受戒ス

くれぬ間はさゝうゝんとゝ

目のさゝうゝん 観無量壽經ニ曰ク観除睡時恒憶此ノ事ヲ云フ

念佛ノ時睡ノ催スハ念佛未熟ナルニ依テ我心ト念佛ト合スル上ニハイカデ睡眠気ザンサレバ目ノ醒ルホトノ行ヲ観念セヨト示サル者也

迷ハ者ハ十万億土樽レル者去此不遠心上リ

なりといれゝ 見も

も会佛すれば生生

此段或人ノ曰浄土ノ教上品中品下品ノ人ノ気根ニ應ノ示スナリ其ノ上中下ノ三品ニ當テ之ヲ可ヘシ先ツ念佛ト我心ト合スルヤウニト示サルハ上品ノ人ヽ又次ニ疑ナカラモト示サルハ中品ノ人ヽ然メリ又次ニ疑ナガラモ往生スト教ヘラレシハ下品ノ人ニ應メナリ爰ノ三ツヲ別テルヽヲ兼好タヾトレト廢美セラレシトナリ此ノ説是ナルヤ否ヤ暫ク期智者ヲ

因幡堂ノ入道

何ノ入道とかやありしものゝ子にて。かうちうときて。人あまたいひ下りくれば。はしもとめて。栗をのゝしりて。あまりさへ。ざうれんぶ。ふるまひ。異ことやうなれば。人よりあべきまにあらぬとて。花やゆゑ。ぶ。ぶ。

九悪ヲカクレ善ヲ揚ルヲ云ハ聖人ノ心ヽ何ノ入道ト云テ姓名ヲ不云モ此心ヤ

此段ハ形ヨキ娘ニテ殊ニ人アマタ云ワタリケルヲ入道常ニ昏リタルヲナレバトテ嫁ヲ殺ガルヽヲ憂美メ書ケリ凡ソ仕官ヲ望ミ求ル嫁ヲ或ハ病アルカ或ハ心ノ癖メルカ形ノミニクキアレトモ他人ヲ頼ミサヽヘヽニ偽リカザリテ終ニ其身ノ恥ヲ求メ且ツ先祖ノ名ヲ穢ス者世擧ニ皆然リ然ルヲ母常ニ昏リタルヲアリトテ嫁ヲユルサヌ入道ノ心尤至極セリ

徒然草諸解抜之一終

馬

貴内裏ノ豊楽院ニテ騎射アリ左近ノ馬場ノ南ノ方ニ番ナドスル事根源ヲ尋ルニ又五月五日節ニ五位以上進上走馬ヲ云ヒ延喜式等ニアリ然ラハ中比ヨリ此事ヲ以テ今ハ加茂ニ之ヲ此ノ式ヲ残セリ

徒然草諸解抜之二

五月五日かゝの競馬をゝるとて。車は前にかけ。人主へぐして。乗ぶ。

時ノ際ハコトニ

ちからなきにしたがひ。

梅檀

むらひとつあ。ちの木よ法師のゝりて。おのまゝについゐて。ねんぶつ。

侯又甚

ありとつまきあ。ぶ。

眠て。おちぬべき時。

万世ニ長ト云ヒ本朝文粋ニ高評ス

見とゝめ。ぶ。

朝

見とゝめ。人あざけり。

後

わざとして。世のきれものゝ。

あやうき枝のうへにて。やをきんありて。猶つる
らんといふ。我(兼好)ふと思ひ出まゐらせ
萬死の別(死ぬと生の字ニハ心ナシ)。只今よりやあらん。それを忘れて猶
ひて日をくらすこそ。をろかなる事ハ。はてしなきなり。猶
をといひられば。おなじ人ども。猶つゝ(きにこそ)をのげん
ものをろかなるといひて。皆うちつれ立て。さらに
いとせ。我(知らんハ知らぬ)まゝにて。ふとうちてよび入ぬ。(兼好)
のことり。猶久しひ。(人ざんされ)。(人見物の場ノイガハヒ)。猶
ひとりぬんちして。(見物ノ人)。ふとあつりけるやう。木石(ボクセキ)
にあらず。猶感ずるものなきこと
あらじ。(文選鮑照詩云人非木石豈無感人木石ノ如ク無情ノ者ハ悲教ル人ナケレバ心鏡イツトモクモリ誠ニ依テ教ヘバ自胸ノ息感ヲ動クハ必然ノ理)

教相 真言家ニ聖教ヲ学ブヲ教相ト云ヲ行ヲスルヲ事相ト云フ爰ハ事相教相ニ達セモ人ノ師トナルホドノ僧ヲイフナリ

唐橋中納言(雅清卿村上源氏)と云人のまよ行(ギヤウ)雅(ガ)僧(ソウ)にて。教相のこゝろ
ふかくに。鼻(ビ)は中(チウ)ゆがみて。口(クチ)は
くつくろひられど。ものやうく(ヤウ)きく
もれ(聽)ぬべきにて。打(ウチ)ハ(ハ)ひられ(目眉モ見ハ分ヌ)ぬべきにて。目(マナコ)眉(マユ)額(ヒタヒ)など
すべてそこなはれ。鬼(オニ)のやうなりて。目はいでくぼみ
につき。額のうどもまるにて。ほう(ボウ)のうち

三の森 冷人ノ筆ニ安摩トテ初筆アリテ其次ニ色赤クシテフクロニキ面ヲアツケナリ

此人はいかゞ。あるべき。年久しくありて、物
わびしくくるしてゐたる事なりとぞ。ありける

此段世間ニ病ニ依テ其人ノ善悪ヲ定メラル癩ハ元病ハ変症アリテ甚タクハ奇怪其人ノ例多シ何ノ悪人ノミアルキ病ヲ受ンヤ氣質ヲ稟ル処モ情ノ感スル所ニ依テ病ヲナス悪人無病ニ善人病ル事数段ニ及ヒハ孔子ノ伯牛カ病ル時命ヲ哉トノ玉ヒシ所ヲ以テ此ノ段ヲ工夫スベシ世ノ謗ヲサトサレ為ニ教相ノ師僧ト云出メタル病モアリケルカト也留ム

春宴

宴もたけなわなるに、つくづくと、やゝ
ものさびたる。ことに、なまめかしく、
らぬ家のたゝずまひ、もののあはれ
まるべき花見る。ことさら、をとこ
子
ばかりにて、ものしてまゐりたる。
のよきほどにあきなるに、侍
ばかりまでとゞめて、
きるまゝに、

清

論語ニ子ノ燕居申々如タリ夫婦ノ和ヲ思ハスヒガメキ

書ヲ見タルヲ褒美ノ国門ノ中ニ所スルトテモ猶心ヲ敬

此段ホノ段ナドハ古詩ノ体ヲ移テ優ナカサニヲ書クサレ共此ノ男ノ体人無キ所ニ居メモノドヤカニ

書ヲ見タルヲ褒美ノ国門ノ中ニ所スルトテモ猶心ヲ敬ベシタと有ベキヲ略ス

酒ハ、なほ、
男ども、
酒もりいとまなき。
桃の花の
ひとりぬ。
ひとりとぶらひ
ぬきもいとゆ
ひとりとぶらひて
編笠ふかく
人なりけんこそ
酒をえらぶ。

内ヲウナバ

光源氏西宮記ニ曰ク摂関ノ主者ハ下衆人共ニ用ヒズ近代五位以上用之

濃ノ字濃紫ノ色

細ク許ヲ以ヲ

陰乗ノ人ニ義ニ

キモノ人ニ面白ク

吹すさびつゝ。春とまてゝ来るべき人もあらじと思へる。ゆゑんなこと共。次第を追て書付侍べし。されば。笛をとりてゝ。山のまろに出門のあるうちへ入ぬ。欄干に乗て。車をやる。車は元物なり。つゝ。ひとり八月十五夜の月を眺て。言ひたてまつれば。しばらくありて。月の出るまで。ものをいはず。ものをも言はず。月の出るまで。ものをも言はず。月の出るまで。ものをも言はず。月の出るまで

偽ることをいひける　此段腹悪キトテ人ノ全編ニ云ヒタリ自ラ徳ヲ隠ハ何ゾ外ニ
世ノ悪ノ外ヨリ名ヲ付ヒタリ徳ノ至ラヌ人ナリトテヲ以テ
後人ヲ戒ム

柳原殿ニ強盗法師と号する偽ることヲ
盗むあひしるゆへよりけれとつけるとぞ

先段ハ又名ヲ呼ル人ヲ教ヘ此段ハ又又名ヲ問ク人ニ其人ノ名ノ子細ヲ問フ其人ノ宜シカラ
可定教ヒ

或人清水へ参りけるに。老たる尾のゆきつもりけるを
見すぐしがたくといひもそめゆきなれば尾はいかの
事とをくへの給ひとひそれども行連人なし
やまざりけるとぞ。

難ヒ云ク児ノ父ヒタルヽキニ又此方ヨリノカヽメヽトテ一ニ父子其児ニ寄ヲ乳母ナドヲ

ふくとりせべ。角ひたる君のひえ比叡山ひえ山ひえ比叡山ひえ山
ゆをとがで今もやさるひえ比叡山ひえ山とたのみへべ。とぞ

ひえ比叡山ひえ山といひそめ。

是ヨリ兼好判ノ

此段ハ世ノ君臣ノ間尤偽リ多ク面ニテハ従ヘ臣退テハ君ヲソシリ且ノ恨ム殊ニ女ハ情ヒガミテ表裏多キ
者ナリ如此片時モ児ノ一ヲ不忘ハヲロカナガラ殊勝ノ一ナリ其ノ忠ヲ教ヒ

光親　按察使權中納言四位号堀川ノ中納言ト法名西親承久七年於駿河國被誅ス

光親卿院の寵勝満ちて
てさうらひけるを院ノ召されて。供ぶを出されて
うらせ給ひ。さてうちうつぶきうつぶきて
乃中へ入て長ながとうち臥給へり女房
とて。ちどりあれ有れば有職のふるまひやんごと
なきことなりと。感ぜぬ世なかりけるとぞ

爰ノ心ハ光親今日右ノ奉行ナレハ其ヲ大事トシテツイガサナヲ指入テ急ギ出ル尤懐中モトヨリ又可捨ニモアラズ先ツサシ當シル役ヲ務ムルヲ有職ナリト感ゼサセ給フ哉御簾ヘ返ス例ニハ非ス

老ノ来りて。始て道を修せんと思ふ。ふるき懐

人命ハ不定ナレバ

なほ。これ。年の人なり。

然レハ必ス老テ死スルニハ非ス

内ニ思ヒカケヌ処ニ

よ代世をさとんとする時よりそ。だにめてさとりあ

やまれかるへきこと。あやまりとしつ。他れるにあ

後世ヲ思フ菩提心ナリ

去益ノ世間ノイトナム業

らば。速よりとべきこと。ゆるくしの。のちくもべきなりといそぎ

叶ヒ世ヲ去ンスル時

てるとしてこのくもしきて。そ時こそ後悔メモあんやく人い

迫ク少年ノ人モ無常ハ足下ニ有ト心得テ

堂ぐ善常ハ身よ世間りめるとと。ふよひとうをてつの

東間モ忘ズハナドカ

間もつ。きなり。さてばるどう世のつぶをうて

必至ト云

く仏をとつとしふんも間ありやうん。昔ありける聖

人命ノ他人ノ肝要ヲ聞ク

いへ人来りて。作れ要ヲといふ時答ていとく今思ふ力

火ノ焼来ル急ニ迫ル

るありて。既よ朝夕よ世間まりとそ耳をふるぎて会仰て

耳ハ人ノ自他ノ要ヲ入ルニ依テ

つみよ性生ととげ。極林の十因よ作り。心戒

禅林 東山永観堂ヲ禅林寺ト号ス其ノ永観律師ノ作ル所ノ往生十因一巻アリ

心戒 踏雪換ニ曰ク一言芳談ニ曰心戒上人ハ踏踞シテ或人其故ヲ問ケハ三界六道ニ心ヤスクシリサレスベテ居ルベキ一所ナキ故ナリトヘリ

と云る聖ハ。あまつ。世のりてあることを思ひて。

踏踞

とく。つよいうとくまてのこそ考る

蔵主の比伊勢国ノ。女の鬼よなりうるをあてのだりうりといとありて。ちは比日ごろに。京白川の人。鬼ノ人ちてむ上ばうふ。時日ハ西国ちよ来ら

髮ノ毛引連テ

甚ハ威勢アル人ナリ故ニ記カ

ちゝ者ふ院へまゐるべし。只今はそこくよるとい
ひあつ。ぬきてくんてちとといふ人もなく。ゑでとい
ふ人もなし。上下で鬼れてゐるものといひやまず。
ゆゑ安居院ちゑ人ゑうゑ作しよ四条よりうゑざゑれ
人。皆ゑをしてちる。一条室町よ鬼ありとの
しまあへ。今出川乃ちゑりよりゑれゐ流のけ
様なのあつ。あよとをつべうもあるべ
ちり。つく〳〵ゐたるまゑあ〳〵ざめりとて。人とやり
てうするに。れゐるとあへ。ありめり。善まで。うく
ゑさきぬて。ちてへ閉縁とちとりて。濃河きるぐ

ありゐり。ちれちゑ。ゑべて二三日。人の見づゝふ半仏
ゑしとそ。この鬼れ変ごとちゑ。このとくしをちゑを
ちりゐりといふ人も仏ゑ

此段世間ニ毎々ゆゑノ偽リヲ云出スヲ必ズ信ニ謀カザルヤウニト教ヘ又末ノ段ニ三日三日病ヒ苦ンデ八元ヲ人ノ気八本天地ノ気ナリ故ニ常ナラヌ言語アルヲ妖言ト云ヒ常ニ替レル可曲アルヲ淫言ト云ヒ草木鳥獣モ天地ノ変気ヨリ妖孽ト顕レ是皆理ノ自然ナリ然ハ実ハナシト云ヘ在云ヒフラスハ則チ有ノ上一人ノ政正カラス又時ハ必ズ妖言妖孽ノアルヲモ記ス

亀山ゑの池ゑ。大井川のあをとりゐ
大井ゑ土民ゑ作て。ゑ車とつくゑ
くゑあしと作て。牧ゐりいとるといざてうけう
きるゑ。大うゑめぐりざり者れゐ。ぱらくかをしられゐ。つゐ
り海ゐでいるづゑゑ者りゑ。さてうぢれ鬼へ

（八十九代ノ嵯峨亀山ノ禁殿ヘ山荘ヲ立テ隠居ス今ノ天龍寺ハ帝居ナリトカヤ）
（錢ノ魯麁ヲ錢神論ニ無足走ニ）
（魏ノ馬鈞初テ作ル）
（火ハメグリツヲニ故ニ大カタトス）
（引日本紀ヨリ引用ル義ヘ）
（昔ハ素大路ニ加茂ノ祭物見ヲ禁ズ）
（人立ル所ヘ）
（井戸ハ死ニ或ハ病ヲ系リ）

をもしてごらんなさるられべやとゆひて。
酒いらせうけるゴ。思ふ事あらばとて。
いくことめでたう侍り。是より判メ
のいやんとおきものなり
（是は段芳事に其道ヲ知ル人ヲ可用コトヲ云ヘリ）
（寛平法皇ノ御菴室より故御室とも号ス 在ノ字或ノ字ハ誤）
仁和寺ある法師。年をるまで石清水をたづ
（男山八幡宮ヨリ）
ざりければ。心うくおぼえて。或時思ひたちてひとり
（主従ニ又徒ノ字ヲモ書ク）
もちまゐでゐ極楽寺。高良などあて。
（是ヲ心得ヒ）
（極楽寺 八幡宮護國寺ノ別當安宗開山ナリ 右安宗ハ行教ノ弟子ナリ）
（高良 玉垂命ト申也 一説武内神ト 右極楽寺。高良。共ニ社ナリ）
年ごろ思ひつる事をもこゝにぬきてしにも

るて。たうとくそたしけまをもとめ。年ごろ人
ごとに山へのぼりしかども。神へまゐることをいかゝ
かど。神へまゐることをいかゝ
思ひとりて。山までへ
思ひとゝのいひ侍るすこしれるにも。先まへ。あ海
（此程モ前ヲ兼テ我意ニ任ストハ
思ヒ遁ヒアルヿヲ述フ）
引き事なりけり
是（ヒ）仁和寺の法師。童の法師よりあらんとする名
（「稚童」ニ「ワラハ」ト訓ス 前ノ名殘ナリ）
をけるよ。酔て真よ入あまり。
（鼻ノ字ヲ足ル故アリ）
るゝあるへとゝるまで。人ようづきたまへ。
つまるやうにすると。鼻をまゝひらめてかをとゝ
いれて舞おもしに。満座無よいことかぎりなし。

去ゞ（婆）るべき法（イキ）ぬゝんとするに。大方（カタ）ぬゝれど。酒宴（エン）
ときめて。いとゞハせんとまどひけり。こゝくすれべ。
こゝびのまゝうきて。無（イキ）てうて。睡（ネム）よとれ（腫）ちて。
いきもつまりゝれべ。「暴」うちもんとすれどこやもく
ゝれど。ひぐきて「頭」「堪忍ナリ難シ」こゝかりゝれべ。まゞぞもべき
やうもくて。こあなる法（ハ）「鼻ノ足ヲ云」のうへよりこびらをうち
きて。面（オモテ）をひき杖（ジヤ）をつゝせて。来るゝもの
ゞ（詩）ぬて行き。「絶選ノ人怪ムク」人のあやしとゝんとと
うぎうゝる。「醫師（ヒシ）」のもとゝ「見ユリ兼好推シテ」
ゆゝうゝんありさ海。さゝそゝやうなり。猶

（漢淳）神仙ノ業ニ出ル分明ク
をいつもぐゝりゝ。ゝゝよひぐきてまゝ。「醫ノ辞」ゝふ
とハ文（ブン）にも見ゝべ。「醫書」「師傅」ゝゝるゝとゝへもゝ。ゝゝ
又仁和（カリ）ちへ海て。ゝゝきゝん。「老（ジヤ）」ゝる母ゝど。「枕（マクラ）」「病モ」
居（ヰ）ぬて。なきゝるゝめど。ゝらんともそゝゝぶ
猛（タケ）よあゝものゝいゝやうたゝひ耳鼻てきれゝす
ゝも。命（イキ）づゝハゝるどゝいきざゝんだで力（チカラ）をゝてゝゝ引きへ
ゝて。ゝゝれきべを海ゝにさゝ入（イ）てゝ。「内ノ鼻ノ穴ヲ云」を「満（ヘタテ）」てゝび
もゝぎゝゝりひきてゝるに耳鼻「鉄」をうぎゝ。「穿ノ糸ヲ入ル穴」
ぬけにゝゝ。「一辛ヘ安苦ノ義」きゝ命ゝまゝうけて。ひゝくゝやゝぬゝゝ
ゝゝ

「此段アヽリ座真ノ過ヲ必ス失ノアルヿヲ記ノ左礼ヲ好ム者ノ戒ヲ好ム者ノ戒メリ次ノ段モアヽリ奥ヲ」

[遊仙窟ニ風流ニヲモムキ]

宮ゐいとき児のまさけるを。いづくそひあり
あそびんとたくむ法師どもしてて。絶あるあそび
法師どもとらひて。風流の破ぶやうの絶会味
いとなむ。[破籠トモ今云弁当ナドト]あて。第風情の絶に来てゐ入てるあそびの
器の役ときおのようづをきて。其上ちぢ地ーー
きるど思ひうらぬ海にて。はあへ来りてちどを
[唆ノ字]そたーいでよりう。[法師ナド]うまく思ひてこかこあそび
[花鳥ニ風ノ会ヲ]ちくのたびとたるべき[勝語]あれ紅葉ちんんもぶ。[白樂ノ詩ニ林間煙酒燒紅葉ノ]
[青苔ニ庭ノゴトシ]めづりてをつる苔もそこうじはあれ紅葉ちんんもぶ。検あ

[ちちび]

[大和物語ニ綺羅ナクトアリモノ、ツヤナクギゴチナキヲ云ナレバ爰モ叩ヲコトくシクムスブ体ナリ]

らん侍ちち。[埋名]初ん見ぬれよりどいひーとひて。う
づこ[切ノ字ヲツヤ〳〵ヨミ]ける木のりたにむきて。数珠とうう。ちとこ
とくしくむちびおちどいるくふうまひて。あの[文明ヲカナ心ヨモ]ふ
をうきのきれど。ちやく[埋名]
[末ノ字]ぬをあるなりうう。法師どもとあのたがひる
くいさひ。服ちてうう[間]ぬよ
とするとん。うちびあ[無愛ナリ]ア[ニ]リ[真ヲ好メ都ニテ真キキトン]まさしものなり

[可言コトナシ]ものとくて。[互ニ口論ニテ]まてよ
[身]あまりう真あん

家の造りやうハ。夏をもつぱらにすべし。冬ハいるる所にもすまる。あつき比ハ家の内ハ涼しかるべきなり。あつきころハ深井(ふかい)居ハ入へ(ハ)ゴ(ク)ル(ル)ことなり。あつてをるれハ遥(ハルカ)なりすゞし。こゝ海ハ海(ウミ)物(モノ)ハ深キ水ヨリ(ハ)なるに。やり戸ハ。蔀(シトミ)(上下ノ用名)ハ(ハ)なるもあし。天井(テンジヤウ)のたるきハ冬寒く(ハ)炭(スミ)(ハ)なし。造作(ザウサ)ハ用なきをとつくるハ(ハ)なるもたしなく。万(ヨロヅ)用にもちてよしゝ。人のさゞめあひ(ハ)久しくへてまて(ハ)遠くるハ(ハ)。此段人ニ逢テ物語ノ思ヲ論(ハ)数くよみうらくうつくるこそあいなけれ。へどやくなれぬるハ。(ハ)(ハ)(ハ)

けて。いひあつる。いとまびしく。
人のうり生ずる事はべりけり。奇の物のもてまうでそたい
（前段ノ人ノウリ生ル論ヲ）
（火ヲ出ス奇ノ道ヲ知タル人ハアレトモ奇ヲ知ラヌ故ニアヒキ奇ヲ語ルト）
うけ。ものこと。
（奇ノ三不限）
らじ。ものべていとも。きつねの道のおくしうしるべ。
いうてきてにくし。
（此段ノ奇ノ道ハ古キ教ニヨリ心ニ付メリ。先文字上ノ以次ノ悪ニ猶以耶ヲ上ニサレド文字ノ一ハ無学ノ者ハキヲ付ヲ人毎ニ云ヲ非ス奇人誰モ云ヲナレバトシ）
道心あらべ。任ずるもうじ。家ゝあり人。
（世俗家ニ居ル妻子ヲ帯ス）
（世間ノ俗人毎ニ此云ヲ非ス）
じゃうもぼ。世を捨ん人。
（一念思ヒ立テ此世ヲ捨ル者トシテ）
よは世をもてぬ人なり。げ。
（不生不滅ノサトリヲ開タシト思フ身ニ）
ば生死出ずんと思ふ。
（妻子眷属ヲ厭ハイサギヨイヨ）
よ。何の無ありてか。
（人ノ世ニ此云ヲ非ス後世ヲ願ヒ）
ものぞ。
（世間ノ俗）
ものいさ。
（先ツ我身ノ世間ノ俗ヲ離レ諸縁ヲ放トノ閑居ヲ云フ）
縁。見ル所ノ諸縁ニ引ルヽ事
（人ノ家ノ量ヲ）
（是ヨリ家ヲ捨テ無スル人ノ辞ヲ）
入ても。我ものけ。
（今時ノ人ノ世ヲ付前ノ人ヨリハ劣ルカニヨリ便）
ものあるまぬ。
（其ノ飢寒ノ求メニ依テ）
ふるもの。
（飢ゾ寒キガ悲キヨリ世ヲ求メバ世ヲ厭ムキ）
はもどうしん。
（甲非ナレ）
てうむけ。
（ソノウヱニズ）
しなどいちん。
（如此ニ難世ハ）
（切ヨリナニヒニ世ヲステタルハト）
（是ヨリ兼好徒然ヲ閑居スル本意ヲ述ル）
ひとある人の。
（世間ノ俗ヲ不離勢ヲル人ヘ）
貪欲たはきに。
（似ル）
きにするべうら。紙の衾あ
（蓼）
（飢ヲ一ツ便）
（義美）
（荒ヲ一ツ世ノ便）
ものぞ。あつ。

うん人のついへとるうん。しもふるはやもく。こちんく
やたるあべし。[タトヒ四ハスルモ足ル人ハ世ノ捨テ乱ル人ナレバ]乞ふ[カタチ]ハ[ハダ]
[剃髪黒衣ノ形ナリ]ふるもあれ。[彼ノ飢寒ノ為ニ火ハ世ノ求メテ計ル]ないとる
[悪ヲ知リ外ル者ナリ]
まうんちづくるのそぞおぼきつと生[人ハ天性ノ具ノ善]
あるあり。て世をのがるうんこそ。
あるあり。れ。ひらへよむさびるるとつあてば
[道]ぶるれもものざんかよろづのちくるいよ。うるふ
あふあ。ぐらや
[島獸、朝ヨリ夕ニ迄食ヲ求ル念ヲ止メテ然ルニ人ト生レテ善悪ヲ不知食ルニナラバナリ]
[中段モ前段ノ世ヲ遁ルト云ニ次テ益ク深ク感]
[人間一生ノ一大事ナリ]
大ずを思ひてん人。[ナリ][世人ハ稽難ト心ニ掛ルベシ]
をとげもして。さるうらもつべきなり。[本ト意ヲ遂ズ其ヲ捨ニ]
[果]
ハでたずくへばるさとしきて。[ニクイ人ヲ坐上落下ニ捨ニ世間ノ人]
[ムベ]
[求ル処輕キ故早速満足スル人]

人の物やあうん行末紙ちくさ火ニ合テ万ヲ仕舞テ
ちもあまいちもあれ。ちこことはうん。うどあらば。
[餘リ急ニ物ヲハカレバ]ふるはかぬやうるるど思ひんるる。えるこあるこ
[日比ノ本意ヲ遂ズ生モアルベキ事ヲ隙ヒルハアラジ]
いとくかなりて。[世間人事ノ尽ク]つるかきりもるく。思ひ立日
もあるうる。れうやうん[大体ニ]人をるるに。がんあふきて。[際]
時は[三体詩霊徹ノ相逢道盡鉄官去ル林下何ノ曾ヲ見ニ人ヲ上ス心ヲ]あるうて。
[近キ公事ヲ云ハ此事ニ入テ上ス面ヒヲ]
るる人[ハ]ふ[ハ]ふ。身とたこをうんとられば。
[是ヨリ大ノタメヲ設ニ由ヒノ人ヲ戒ム]
[全ク終ル其ノ人ノ此事ヲ果ルヲ上ニ上ニ]
[ヒ]ルをもうへ[ヒ]るあふ。ちくさ[ハ]るど
人をまり。[ヒ]ト上ガ[ヒ]ニ[ヒ]ツ物ニ非ズ。善常ハ
ちもも。迷よのうまごるる。[スミカ]
[世常来リテ今ハ[ヒ]ラ上ル時]
[近ク三リ来ルモ]
[ムカ]

ちゑきこと。君は恩。人の情。捨てうしなひて。そこなひ
高系院は盛秋侍ひて。やんごとなき紀伊ちゃんこと。
御室ニアリ 仁和寺ノ院家ナリ
いもうとといふ姫とぞ。みそなはしたまひける。後鳥羽の
座ましましたりきなる弁に。堪能なるかぎり。久しくもとめ
もとめたまひつゝ。ひとりの。姫君ぞ。
聖教ナリ
幸あるにハ。七日ばかり。療治して。験ありて。
やうやうにいもうとを。えらびてこれをくゝめ
業は病とぞいふ。人よりはるかに。すぐれ
たりのこそ。ひけるに。きゝてまゐりたるに。師匠
死りさうなる。綾二百貫と。坊ひとりに。
と。坊を百貫ばかりて。はた三百貫と。いもうとに
銭
あ。と定て。京なる人よりあつまをむまして。十貫づ
とりよせて。いもうとに。
に。又異と男よりもかとるべきてぞあるべきなり
よりり。三百貫は姫をまつしき方よ。
兼好判ニ云
ちゝひる誠ニ。死なん者なりとて。人ひける。
此僧都ある法師をとて。
其ノ旨ヲ行ハレ人ニ可教ノ
ものとり。と八何姫とと人のとひられ。
都もちゝひまあり。
そいひる。此僧弟ありて。

書。学匠。年来人ゝをそれて。宗の法の師なれども。
ちゝやこゝもれたく思られうらまし世をうくれ
ハ暗ヲ照スニ譬ヘ論スモ
ども。うの曲者にて。業自由まして。大うち人うちさか
ぬといふなり。おこりて。食暗ちとに法くはも。
モテナスヒトノルモフケヒヨメリ
れ人はおを人ゝをまもるべ。我ら人うちへぬ
もバ。屋にてひとり斎食て。ゆりをれい。ひとりは
いにて物ゝ。ら紀時も人うひとく定てく
僧祇律ニ曰キ時ハ日影過ギ一髪一晩ヲ即是非時
ゝ。ゝゝひゝき時。我ちに。暁にも食て。物ゝく
ゝれど屋もひこもりているか大なあれば。人
のいふきいもの。ゆさあぬれば。物もいふと。

ふ紀をまりてうをまきあ
ぬさ海なをも。人ゝ
厭人ニキラフレバ
ゝり。法のいるまゝゝゝや

此段終リノ徳ノ至レリケルニヤ上云処肝要ナリ芋頭ヲ好モ能ニアラズ其外世ヲ軽ク思フノ条〻皆人ノ好ム処ニ非サレバ務ムベキ学問ニ達シ徳ノ至レル人ナレバカホド私ナルフルマイナレバ寺中ニモ重ク思ハレ人ニ仰ハレサルトヽ兼好心モ此僧ノ行跡ヲホムルニ非ス徳ノ至レハ外ノコトヲ世人ユルセルヲト云処ヲ記スネ徳ノ者是ヲ〻子バ則往人ナラン

閑居のとき紀題れたるへさまれる事ゝあるそ。

甑 和名集ニ甑音勝同和名カシキ古之岐 炊飯ヲ器也

れたるゝ

九殿ノ棟ヨリ礎ヲ轉落スナリ

法眼衣十是皇子ノ誕生ノ時ノ事ナリ

当ひなり。ゝこゝらせ弱ゝ。下ざう海よ
ゝとれたりて。さるを紀法ゝ。大あれ生れ
まをめをなり。ゝ紀宝義の給ゝ。賤き人のゝ

禮おとゝ[ヒ]ハ腰ノ氣ヲトスト云義ヲトル
大原 壁後ノ大服ニナルトノ義ヲトル

たゝをきてり

古キ寶藏トハ寺社共ニタカラヲ納ル藏ヲ指メ云其繪ニ賤キ人ノ子ヲ產タルニ此繪アリ然レハ昔下ニ用ヒタルナルベキヲ後皇子御誕生ノニシナヒニ用ルヿ李說ナキヲ誤ルヿヲ改テ此段ヲ書リ但ニ此ヿ久ク用ルヿカ平家物語ニ御殿ヨリ禮ヲ落セシヿヲ記セリ

通法門院いときなくおはしまし
ける時。法へまいり
給へりしに。ことのほかに
の御ものをしがりて。牛
車のすだれをもあけさせ給
ひ。こゝろ見ひろめ給ふ。君は笑ひ
給ふ。

此段御幼稚ト云姫宮ト云其メ奇妙ノ御歌ナレハ爰ニ記ス但ニコヒシクノ假名いノ字ハ誤リナルヲ兼好記セルヿヲ難スル人アレ共若シカラスンヤ頻阿カナ魚ノ歌ニ アメフリテカハモミヅスアチコチニフナ今イレコまゞサハラシト ヨム時難ヲ云カヤウニトヨメル例モアリ

後七日 眞言院ノ御修法ハ正月八日ニ始
白ニ十四日結願ナリ凡ソ禁中ニ元日ヨリ節會迄ハ公事多キ故ニ沙門ヲラズ八日ヨリ始ル故ニ後七日トハ申也天長六年ニ弘法大師大唐ノ内道場ヲウツシテ禁中ニ眞言院ヲ立テラル承和元年ヨリ大師此法ヲ始テ行ハル今ニ於テ東寺ノ一ノ長者我本坊ニテ元日ヨリ行ヒ八日ヨリ禁中ニテ執行ハル大師請來ノ袖衣ヲ著シ曩祖附屬ノ五鈷ヲ持テ玉体ニ近付奉リ香水ヲ加持ノ灌キ奉ルト也

武者とあつむ 甲冑ヲ帶シタル武者四門ヲ警固ノ盗賊ヲフセクナリ

ありさはにて そ 此御修法ハ天長地久五穀成就ノ爲ニ行ハルナレバ年始兵ヲ用ヒルヿハ安穩ナラス体ソトク

五緒 或曰簾ノ飾ノ由ヲ図傳ト云レトモ猶有職ノ人ニ傳受ナクテノ難知

きはめつゝ位 極官極位ナリ其家相當ノ極官極位ニ至ルハ垂ルトヽ云ヿヽ菊其ノ

後七日 昨は阿闍梨。武者を
あつむ。此御修法ヲツトメ玉ノ師ナリ いとゝや盗
人ありさはにて。直ニ訓ハ殿ニ上ル心 禁中ニ夜番ヲスルヿ
人ありて。一年の相ハ法中
瑞相ト說文ニ相省視也吾言故吉文ニ人負ヲ目相ノ
のありまさ。そ。
なれば。つゝものをもち
いむ。をゝ。をゝ。
まなり
朝は五緒。必人ありさはに

右大臣ノ書札ニ攝家ハ以ニ関白ヲ為ニ先途一
清花ハ以ニ上臈ヲ為ニ先途一ト云云先途ト云ハ極
官極位ノ是ヲ以テ他家ヲモ可推知ル
或人作ル歌
二條家ノ車ノ記録ニ曰ク土
御門ノ大納言ノ抜ニ云ク大小葉五緒ノ車
長物見ハ極位ノ人是ニ乗ス近代多ク乗用ス
不可然ルトヤリ此ヲ引用ル也

其身ノ木ノ
どにつけてきいもふつの
さ位よいろぬ主へのふ
ものなりとそあるへ
作る歌

式ヒ乃冠をもしてよりきふるにあくなりうめなり
とそ。あるへ人れいせらるる。古代の冠桶をのちた
るへ人ハもとをはきて今用ふなり
冠ハ故ニ冠ヲ入ル曲物ニノ梨地
蒔絵ナドニテ内ヲ錦ヲ以テ張リ
上ノ段ト此段ハ有職ノ事ヲ記スヤリ

[illegible]ハ故ニ冠桶ヲ
[illegible]
[illegible]白殿
[illegible]
[illegible]
[illegible]

らぬまで。二ツ付へし。苔のさゝ枝にひうちの花のうつり
くゝへてきりて。半の角のやうなたゝむへし。初雪
のあしたに。枝をうたうけて。中門よりふるまひてま
いる。大きなりの石をたゝくひ。雪よ松をつけを。あま
ねしひの毛をうふりちらして。二むのの
ちの尾付にアル笠袋ヲウヘル毛ヲ
而乃[illegible]柳よりせく。緑と出そろれば。肩にかけて。拜
ニテキルモノヲ訓ス梅杵ヘ
してきりそく。初雪といへは。鼻のちかのくれぬ程
の雪をいへまいらす。あまたひの毛をちらすを。
雪はよいことをとるとあれば。雪のらりるを
[illegible]ヲ解ヘ
[illegible]

ありる。長月ばかりより梅の作り枝より雄とつけて。
伊勢物語ニツカフマツルヲ長月バカリニ梅ノツクリ枝ニ雄ヲツケテツカフマツル上ノ
我ダニ君ガタメニトワカ花ハ時モワカヌ物デ有ケル
武勝カ花ニ島付ヲ知ラスト云ニ依テ兼好不審ノ如此ニ伊勢物語ニ出タルガ但シ是ハ作リ花トカルニ依テクルシカラスカトヽ

君がためをとる花へ。時も
わぬとゝること伊勢物語
よとゝうり。作り花へ。
[illegible]
ぬる本

賀茂の岩本橋本。業平実方なり

業平ハ平城天皇ノ御孫阿保親王ノ五男ナル故在五中將ト云ヘリ
実方 一条左大臣師忠公ノ孫侍從定時ノ子ニテ右近ノ中將迄ノボリテ哥人ナリシカ一条ノ御時大納言行成ト口論ノ事ニ依テ陸奥ニ左遷セラレ則彼ノ地ニテ亡ヌ其後西行下向シテクチモセヌ其ノ名計ヲトヽメ置テノ枯野ノスヽキ形見トゾ見ルトヨメリ 此ヲ新古今集ニ入ル
扨岩本橋本ノ神ヲ業平実方ナリト云ヘハ非ス此ノ両社ノ両人信仰セシカ共其両社ノ内何ヲ業平信シ実方仰キシト云フタシカニ知ル人ナシ

人の常よいひまぐへ。年年[illegible]ぬるもしに老

る宮司のもとをとびらひらめて見るに、実方ハ

みちのくに行のうつりけ

ふ和と侍れば、橋なや杉の

のをれどとれどく侍る。吉

あの和尚　月をめて花を

ちりあしいとうのやさ

よと詠ぬるは。岩なれやと

もどもちのもとよりハ。ちの

ありと。いとうやく

く。ひるまてそ。いとう

く。今出川院の

て。集どもにあまる

入る人ハ。ものくるまけるに

ものよ百首の哥とよ

うの二ツの社ハ歌のみち

人のなかあるかたなし。誠よやんごとなき名あ

くく人なり。作文結序ちと。いとく

此段業平実方ノ岩本橋本ノ社ヲ信セラレシヲ述テ永ニ近衛ノ局ノ事ヲ云テ真實託神ノ信セラレシ徳異ノ誠ノ感アル故ニ名

歌ヲ讀出サレシヲ記ス次ノ段ノ端ヲ起ス

紙衾よちまどの抑領使ちと。いとやうちまるもの、

をけるぞ。よろづよいとぎき新とて。

朝ごとにかりげくやまきて食けること。年久しく

今出川院　亀山院ノ后西園寺公相公ノ女

近衛　を湯ノ局ヨリ大炊御門ノ庶流

大納言伊平ノ女　井蛙集ニ近衛局九戈

ノ時ニリ厚氷上云歌ヲコミ續古今ニヨリ以來

ノ五代集ニ逢テ歌ヲ入リ詩ヲモ作

リ佛法ヲモ辨ヘ一生不犯ノ女

吉ノ宮司ノ理リニテ西社ノ分ヲヨク同ハ人ハ兼好ノ感ル詩

武蔵ノ国ノ郡ノ郡ヲ知行スル者也今ニ絶頭ナドノ類ナリ

慈鎮ヨリ法性寺ノ関白忠通

公ノ子ヨリ山門六十二代ノ座主東山吉水

居ス故ニ吉水和尚ト云

吉水和尚

春日ノ社ニ拾ズハ三ツ子ノ内ノ名モ知ラ

加茂ノ社ニ非ス神前ヲ流レ川ヲ総テ云ヒ

森ナレ隠テ流レ行ク　枕御手洗ト云名

御手洗ハ神山ヨリ出テ片平ノ

ヘタリ京極ノ御息所ノ歌合

成ぬ。ある時館（屋形）のうちよりけつひまをもちりて。敵（襲）をそしり来りて。ここせめけるに。兵二人出きて。食をたしなみ戦て。皆退散（ヒキノク）

たそ人　春秋長公廿三年秋齊侯伐晉冬齊侯襲莒ノ傳曰輕行掩其不備又趙氏曰凡師有鐘鼓曰伐無鐘鼓曰襲

然ハ敵ノ思ヒカケヌ処ヲダマシテ伐ヲ襲ト云

てして。いと不思儀（ヒギ）なたぐ元て。日比てよ。拾（ヒロフ）ふらもなぬ人々の。殘（ノコル）弱（ヨワ）

姫へ。いろる人ぐと問（トフ）れば。年比（ヒ）あつまりて。あさこく食（ハミ）つる。土（ツチ）たち（等）にさふらふといひてうせにけり。

ふく信（シン）をいとなまれぬ。くふ法もありけるまこと

此段前段ヲ承テカル無情ノ物ニダニ深ク信ヲトレバ感ズルナキニシモアラナバニシテ佛神ヲ信ジ感應ナキ一ハ人ベカラザルヨトヲ記ス

書写　播磨ノ書寫ク

上人　性空也　欽書曰性空平生城ノ人

書写（シヤ）の上人は法華（ケ）懺悔（ケ）の功つもりて。六根（コン）清（シヤウ）浄（ジヤウ）なり。

眼耳鼻舌身意

ちる人なりけり。藏（ゾウ）のうち

豆のしるをたまりて。ぢめと養

其ノ人メヲ養ハズ耳ハ聞ズ耳ハ聞ズ豆ヲ食ハズ一根ノ故ニ

人ぞ。拾（ヒロフ）ふとい（ヒ）けり。

呼（コ）音（オン）へ。豆（ヅ）がら焼ク音如此耳ハ聞ズ

ぐ。豆（ヅ）がらの。ちりくと

とられ。ちちちちちとする。やまいはいたりて堪（タヘ）

なりくれうしうしう弱（ヨワ）ひそ

とそ。ぬのくけ

此段イヨ〳〵前ノ段ヲ受テ性空ノ法華ノ唱誦ノ功ノ顕レメルヲ記メ今ノ人モ信心懈怠ナキ時ハ其験ノアランヲ教ユ

麦ニ託ス豆ヲ煮ル一世說ニ魏ノ文帝ノ弟曹植ニ七歩ノ詩ヲ作ラシメ玉フ時此ノ二ツ似タル辞アリ上モ其イヲ必ス麦ニ引合テ兼好用ヒ非ス偶ニ漢同ジ辞アル迄也

元慶の清暑堂にて、御遊ありけり。去年はうせにしを。蔵
後撰酬年ヨリ　清上濁両音　琵琶ノ名ク　桂部歌ヲ敏渡ル　処ニ代ヲ
人の亭のたえて牧馬と弾ひけるよ。座につそ。
同時渡ル処ノ馬ヲ　前ノ如ク　琴ノ名ク　琵琶ノ名ク　絃高ク　琴ノ桂ヲ
琴ノ名ク　琵琶ノ名ク　絃高ク　琴ノ桂ヲ

とさくらまてりられは。ひとしろ
琴ノ桂四ツ　琴ノ名ク　琵琶ノ名ク　絃高ク　琴ノ桂ヲ

うくいとをもちはひらるまて。はつ
琴ノ名ク　琵琶ノ名ク　絃高ク　琴ノ桂ヲ

はしるなたにもくひて。
琴ノ名ク　琵琶ノ名ク　絃高ク　琴ノ桂ヲ

題ノ。西へなりけりいつなるこ
琴ノ名ク　琵琶ノ名ク　絃高ク　琴ノ桂ヲ

題ノ。昔西へ　琴ノ名ク　琵琶ノ役ヲツトメ玉フ

くて、ぐるぐるぬき。文車(フミ)に塵塚(チリヅカ)のちり。
（書物ヲクルマニモ、車ヲカケ、失ハズシテ、早ク引出サン為ニ、今禁中ニアリ）
（脱ノ塵ヲ所ニハキヨセテ置タル所ノ塵ハ見苦シ）
さてよろづうつてつもること。ゆくとんあいものきまや。多(ヲホク)
（此段世間ノ人兎角偽ノ多キ事ヲ云立テ、関人ニ真実ヲ思ヒテ謀レ其ヤウニト教ヘリ）（タイカウキキヤ）
うちそらごとなり。あかつきもるて人は相といひるとも
（大形虚言ヘ）
よ。海ゆて年月(スギ)。東ノイヲ見テ云ヒ京ノイヲラ西国ニテ云ヒ
つもるまぬまに。いひうき海
ようなりて。業にも出(スキ)ぬ。どめぬまに。やがて定ぬ。
（アキ人ハコトヲ思テ）
ちらくの相れ上(ジヤウズ)のいくきことと。
（頼也左傳ニハ不則ニ德ヲ以テ）
人のその道(メ熟ニテ案内ヘ)ちぬ。そ（諸芸能ヲ）
坐ノ守也ヲモヒテ（ヲ）ズ心ヘ文選長城賦ニ坐ニ在ル善注曰敬ル也向注忽然ル也
知る人いさうよ信(シン)もむこさ。音よきてと。ぐる
時とハ知るもかるあなり。
（ヒノ合ヲクヘ）
ぐつあるもしうう
（文ニ云心ヒテリ）
ぐるぐ口よ海ゆ世ていひちらるぬ
（浮）（言）
ぬやそうきるとゆく

（是ヲ是ト思源ノ人ノ虚言ヘ）
きこゆ又、郡も海こそ。ぐ
（諸人ヘ）
ぐ号ひ。ぐ人のいひ
海ゆ。鼻のなどをぐあきて
（是ハ偽ト心ニ思フヲ頼ニテアラハレテ云ヘ）
（春藤ノ守）
いふ甚人の虚言いあ
（向ヲ向ヒヘニ語ヲ心中ヨリ作リ出ル虚言ヘ非）
らぐ。ぐよ。ところくう
（是ヲ又一通ノ偽）
（脱物ト云クホヒ名体ヘ諸中ニ既ヘ又ヒ名ヨヒニテ云ヘ）
ぬようして。さうちぐつ
（人ぐくより始中終ヘヘヘ都ロヒヒヒウヒニ語リ出ヘ）
ぐくあつて。ぐ
（是ヲ是ヲ上云ヲリ是ヲオ知ラカ人ノ偽ヲリ）
ぐそ。ぐ
（是ヲ又一通ノ偽）
きこと。なり我
そうこ云へ。人いてあ
（向ノ人ノ虚言ニ何ゾ我ガ面目アヤフニ語ヒキ此物頼虚言ヲリ上タルカニ心ニ知ヒガラ我タメニカヒ人ヒヒヒヒ其ニ図ヒ）
ぐ人の無ずる虚言をぐ。ひとう
（サン）（我獨リ是非シ虚言ヲリト云アラハサンモ詮ヲ）
うんも詮なくてきていうる
（世）
て。いとぐさぐ海ぬべ。どに
（是ヲリ前ノ段ニヲ結ノ）（後ニ前カヒ此人モキカニテ讃人ニ別ヘ）
（何ヲ図テモヒヒリ信ヲヲコ世ヘ）
世なりぐつ。よあるめづ
ぐりかるぬるものまに

ふゆうん。万たがふべうらべ。下ざ面の人死物ぐうりへ。耳
たどろくことのみありよ。よる紀人はあやう紀ることうう
ぼうくいへど仏神の奇特。権者は化。まこと信せ
ざるべきにもあらどぞ。これハ世俗の虚言と会況よ信じ
うるもたぶ嗚呼ヨカシ上云心。もあらじるどいつも。せんな
けきべ。大うこはぬうくあひ。いて。ひとへよ信せ
ぬ。ようこびあざけるべうらべ。

此段ノ末ニ尤偽アル世上云ハヒ仏神ニ色々ノ奇特アルヿ権化人ノ傳記ニ又種々ノ奇妙ヲ書ナリ是ハ近ヲ是モ亦偽リナルベシト疑フベカラズト云リさのミ上云ヲホメントテ亦奇妙ヲ記ス皮モアルベケレバ是トテモ逐上信メハヲロカナリト云心ニサノミ信ゼサルヘキニアラズ上すり

蜻蛉のごとくにあり。ほうて。東西にいそぎ。南北にし
ぶ。ちうきあり賤しきあり。ちうあり。ちうあり。ありあり。移ひ
あり。ゆあり。ゆあり。ゆあり。ゆあり。朝よりくれまでいとなむ所何ぞ
ぞや。生をしさり利とりとめてやむ時なし。ゆとや
しらひて。ゆるすもちまり。期する所ハ老と死とに
あり。ちうあるすちうあるやうにして。命ハ間暫時。老死ゆくハ永流ニシテ日月
ぼうとまり間。何の楽うあるぞ。愚夢幻ノ世ニハ
それぞ。名利よ。ハ。ぼうとまて。先途のちきことをうう
ぼうハなり。ちうなる人。又。乾ちうる。世。常住なる
らんことを思ひて。変化の理を忘れ。ぐなり。

化ノ漸ニテノ若キ者ノ老至ルガ如シ化ハ変成ニテ俱形ヲ同ジクセズ有ル物ノ忽チニナクナルガ如シ死スルハ化ナリ
ルノ天地ノ間ノ万物一ツトシテ変化セズト云フナシ四時ノ日月ノ昼夜ヲナシ草木ノ自ヲ出シ落ルヿトス処見ヘ

皆變化トリ然レハ人モ天地ノ間ニ變化ノ出生シタル者ナレバ又變化シテ或ハ死スルナリ愚ナル人ハ
是ヲナゲキテ老モセズ死シモセズヨ常ナランヲ願フハ根元變化ノ人ナルヲ知ラヌ故ガトク此段ハ名利ニ
魅テ道ヲ忘レタル人ヲ戒ム

つゝ〻〻らづる人いつちゝかんちゝん。まのきゝ家ちゝく
こゝひとりあるのこゝそゝられ。世にまこゝぐへ心外の
ちりようぐへられて海ぐ利欲ひやゝ。人よ海られば詞
よそのまゝに。まこゝぐひて。さられゝ心ニ思ハスヲモ云ヒ人よ
たゝまゝ。拙よあゝゝそひ。一度ハうゝゝ。一度ハゝゝこゝ。
玄奉定。まゝ恨ニ悦ニ不定ニ皆世間ニシタガフ故ニ。分別ニ世ニシタガフ世ニ
ちゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ

ありなん（此段モ前段ヲ承テ云ヘリ前ニ捨テ世間ニ交ルヲ厭テ諸縁ヲ放下シ三十云爰ニ法師ハ世ニ交ルヲ恥ト）

老中（オヲ段ノ餘ヲ云）なほ人のもてあつかひぐさにいひあへる事。（樺ノ字）

ろうふべきにはあらぬ人の。さく案内（今ハ其事ヲ思ヒヤウヲ一人念比ニ）知りてんにもかくろ

きて世とひ交らるるこそ（又知ラヌ人ニ念比ニ向ヒ）うけ引難（承引シ難）

うけれ。こうしいこうしうある（世ノ道ニ遁世ニ引隠ル法師ニ）

聖法師ちごぞ世人のうへは我ごとく思ひきて。いとど

（ヒジリ）（世ヲ人ノ上ノ沙汰ヲ我身ノ上ニ思ヒ合ス）（我身ノ善悪ヲハ自ラハ知ラヌ事ハ世間ノ）（又我ノ兼好ノ云詞ヒリ）

行カクガリ（ヒトリ）うへ。ちりけんと云へるなるこそ。いひちらしをめか

今ハ（當世ハヒラ文ニ言葉ヒリ又都ノ麦飯時ノ粉糠トキヲ。ヒ云ヒウスカタトヨハウ名ヒ物カトヒ云詞ヒリ）

のるものもの。しきと。いひもてあつかひ（世ノ人ヘモ）

ひろそ。ふけ（上ラ承テ又ヘ）まつ。世ノ人ヘ（旧）とかうしたる人へ

ふ。今ハ（サラ）の人ちどの。ある時（何ノ時）

（祖テ逢名人ナリ）

ちぎ。猶の名ちどの。ひ（種）ちぎ（其ノ人ハヒリ三言葉ヲ心ニ名ルト云）

共ノ手（ナ物ノ三ラ四ツ取ノ具ヲ二合ロスル三ロ）

世。ちひるとして。人ちぬ人（是ハ何事ヲ云ヒ）（ヒ世間ニ）

世ちれど。ちぬ人のるるぞ。（世間ニ）

（其道ニ立入ズ無安内ノ体）

紅のるも入ぬ。ちるぞあるなり

（史云ハ千カ云ヒ）

とてまとちるふ。ちはいふ。

人とも。方ヒ（三ヒ）ふ。ふ田舎ちりさ（ヒ）わ。

（世ノ）

生ハ世（世間ニ）ふ。（世中諸藝ノ能ニヨリ長ニタル人ハ我為ニハ恥ト思ヒ）

思ふ生きさかふ。ふ。ふ（自ラコヨリ知リコトヲ自慢顔ニ）

ちとおもくとつぬ。ふ。ふ（宋ノ文公敬ノ家ノ箴ノ中ニ如瓶ヒリ）

人ふ。我ふ。ふ（疎ヒ好ヒフ段ヒ上ニ云）

（兼好時代大塔宮兵部卿親王ト共ニ誠ニ天台座主ニテ甲冑ヲ帯シ戰ヲ好ニテ其外山門三井寺ト共ニ多有ヒリ）

ちとちはひ。ちはひくちとべ。ちぬ仏法ちるきる。

（麦ニテハ遠国ノ武士ヲ指ヒ）（段モ前ノ余論ヲ云）

（気色）

連歌し。囊絵をたしなむ。[是等ヲ武士モ好ミ依テ其ノ家ノ道ハ人ノ業ニ成ルモノ]されどとつたるものまさるとも。ち[悪シクテモ其ノ家ノ道ハ其ノ人ノ業也]ぶ人よりはるかにいらるまぬべし。法師のいもあるは上達部殿上人[公卿ナリ]ならぬ。[是ヲ名ヲ上人ト云又月ノ上ノ殿ノ上ノ人ト云]ことさらぬことなるべし。武をこのむ人たちは。百人ばかり。[太宗向大唐出]百人ばかり。[敵ヲ敵ナリ蓮ノ手時ハ武勇ノ心ハ又者]敵勝ナリ出ベ勝負ノ運ハ分ナリ]の名を定めしは。甚故ハ運よりあるべしとかやとて。[敵ニ味方ノ負ハ敵ニ降参セズ正降]勇者はあるべしといふ人なし。[死ヲ安ラカ]つねに教へ[敵ニ味方ノ負ハ敵ニ降参セズ正降]死とやすくして。[死ヲ安ラカ]あらるべきなり。いけらんなどは。武士[時]人倫はとり。[人倫ハ人天ノ生気ヲ受テ本心具足ノ仁ヲ人ハ生物ヲ害スハ本人倫ノ好ミ心ヲ]禽獸はとり。[人倫ハ人天ノ生気ヲ受テ本心具足ノ仁ヲ人ハ生物ヲ害スハ本人倫ノ好ミ心ヲ]て益なきことなり

[禽獸ハ生物ヲ害スル生ノ類ハ仁ヲ受ケ色力ヲ害ス生物ヲ食フモ心ニ隠レナシ]近キフトヒ人

[其家ハ武士ノ家ニ生レテハ其ノ道ハ義ヲ重シテ忍テ人ヲ殺スルナキニ非ス其ノ人ノ]ラヌ人ノ戰ヲ好ミ武勇ノ励ハ且テ益ナキ事ノ人 此段モ前段ノ飛ノ論

[屏風下学集ニ屏ハ退也退ノ風ノ義也又屏ハ蔽也蔽ノ風ノ義也]屏風障子ちがの絵も。かくるるが為にして。[利益ノ有ル]のはさらぬ。[ハ]ものはさらぬ。[ハ]ものはさらぬ。[ハ]もの

しゝうぶ。[金銀費]はのへもちゝて。[道具イヤウズ]ぬぐしのようなぐよきうちう

は段上。家居ミツノコトサマハラレハカラルヽ上ニレ段ト同意ニ見ル

羅也錦ナドニテシタル巻物ノ表紙ナリ

うとものゝ衰[ヒ]ヘ。ら〻[裝]擬ぶるふうびしきと。くのい

ひしに。[ホウ]はのがうて地へうゝ[ホウ]もちづまぶらくんの軸ハ貝

[ホウ]はの 小野ノ宮大納言能實後鳳也出歳

テデ殿山ニテ修学シ其後高野ニ詣テ名ヲ頼阿

上改ニ条ノ為世ノ門第ニテカクレナキ歌人ナリ

らくん軸 螺鈿也巻本ノ軸貝ヲ以名

ナリ 鈿ハ字彙金華ノ飾ナリ

弘融 權少僧都也 建武比伊賀佛性寺居住

ふちどの同やうにもあ[ホウ]ぬとゝくんみくとゝいへど。弘融

僧都ゞ。地紙ちらぶら一見[グ]具よとゝのくんとするゝ。梅村

のちらうもゝふ具なるてそうれたりしひいくゞく

たゞ〻しちりもちゝて。[是ニテ弘融ノ辞ヲ受テ十分ニ悪ノ云]の也も結ことの網ゝるんあうき

[息延ル元ヤカンル]いきのゝるゝ。[ダイ]肉裏造ゝるゝにも。必つゝう

きてぬ不紙のちるるなりと或人ノ作也。先賢の

つゝれる肉外の文にも。章段[ダン]のけゝてゝのゝそ結

[内外]儒書ヲ外ト云佛書ヲ内ト云ヘ

章段 天台止観モ三段カケ毛詩モ六篇ニ

大学ノ格物ノ伝カケタル類ナリ○此段モ

段ニ損ゼサラン為ニ上テ品ナク見グルキサニテ

スト云ヨリ受テ云おゝ〻ル者ゝ

竹林院 公衡公ナリ○此段モ上ノ段ノ十分ニ

調リタルハ悪キト云ヨリ作ル餘リヲ論

一上 職原抄曰左大臣一人相當正從二位官位令統類之故云ノ上

うてやちんとて 竹林院心ニアカルハキ人ノアガルハ

[慈也八年]

[上]

[家志]

[慈也八年]

[慈也八年]

[慈也八年

洞院 左大臣 洞院実雄公也 後一位左大臣 嵯峨

相国 太政大臣 唐名ナリ

甘心 甘心ニトハ其食ノ口甘ズコトヲニ我心ヨクノ満足セシムル也

亢龍 易乾卦上九ノ亢龍有悔易ノ心ハ亢龍ハ天上ノ人ノ極リ極リ名ル龍ナリノボリ極リテハ必降ルヲ可キヨリ外ナシ故ニ必ス後悔アルベシ

月満 釈名ニ月ハ缺也満ハ則缺

古今ニ

思ヘ唯三ツヤガテ缺月ノイサヨフ空ヤ人ノ世中

此段弘融ノ三蔵ヲ褒美セル詞ヲ記シ已カ志ヲアラハス父ル人ノ秋門世ノ禮ヲ人倫ノ離レタル者ナレ共其情本右ノ如クナル者ト人思ヘリ故ニ此事ヲ記シ必ス其ヒラヨシトスルニハ非ルヨシ也

此段ハ廉直也足此段ヲ五段ニ別テリ今一段之

論語十室邑有忠信ト孔子モノ毛テ生レ付ノ正直ナ人ハ切ニ我モヤリ方キモ忠ハ常中ノヨキ人也

論語ニ見賢思斉ト云テ人ノ切ニ我モヤリ方キモ忠ハ常中ノヨキ人也

是ヨリ悪人ハ賢人ノ

天性ナ人之有技嫉賢残忠之人之身ノ聖賢ノ使ヒ不通ナル人ニテ和テ賢人ヲイヒニテ不キリ

是ヨリ賢人ノ善ヲ

賢人無欲ナル知テ小利ヲ辞メ大利ヲ得ガ為ニ小利ヲ発ラ先人ヲイヒメバリ自ラ知リテ名ヲ

是ヨリ兼好ノ悪人ノ辞

世間ニ知ルヲ知ルヲ云テ

悪人ノ心ニ引合ヒテ見テ已ト賢ト違ヒ

至ニ悪ナル人ト悪

ゑるを取んとおもふ孫ひて。相国の望おろせざりしかば。亢龍の悔ありとやいふらん。満ては欠るもことわりなり。月満てはかけ。酒盛よ盛者必衰ハ理ト自然ヨリ

てハおとろへ。万事さこそ。

「普安帝時僧天竺高僧法才三法顕姓龔平陽武陽人ナリ経律論ノ三ヲカヌメ得名ル人ヲ云」

三蔵の天竺ヨリ「此ヲ同ジ僧侶ニテリ」唐ヲ指ヒて。古ヘの「此ヲ同ジ」扁を尋てんか。

ちゑ。病まゝ。漢の食をねがひ給ふことを。

「此者又法苑珠林ニ出タリ」

天竺ヨリ至ル木ド人ノ

ゆゑ。さぞかし。ひとの。妻子よりそんをもつ。

「天竺ヨリ」

ひとの四ツ。ことに。

人のいむ。弘融僧都。優

ゑ情ありける三蔵なれとも。

「種也腸也ト法ヲヌカヲカタカラ又心ヨリ」

にもあらぬ。

「廉直也足此段ヲ五段ニ別テリ今一段之」

人乃人すちなる。孫べ。

「論語十室邑有忠信ト孔子モノ毛テ生レ付ノ正直ナ人モ有シ」

ものつゝ正直の人ちゑ。

「論語ニ見賢思斉ト云テ人ノ切ニ我モヤリ方キモ忠ハ常中ノヨキ人也」

どん。

「是ヨリ悪人ハ賢人ノ」

なる人ハつゝ。

「天性ナ人之有技嫉賢残忠之人之身ノ聖賢ノ使ヒ不通ナル人ニテ和テ賢人ヲイヒニテ不キリ」

なる人利を。

「是ヨリ兼好ノ悪人ノ辞」

「賢人無欲ナル知テ小利ヲ辞メ大利ヲ得ガ為ニ小利ヲ発ラ先人ヲイヒメバリ自ラ知リテ名ヲ」

て名をとゝめんと。

「世間ニ知ルヲ知ルヲ云テ」

「悪人ノ心ニ引合ヒテ見テ已ト賢ト違ヒ」

ゝりて。山朝をちをとゝいて。

「至ニ悪ナル人ト悪」

人ハ下ゑの性うる

下愚性 論語陽貨上智ト下愚ト不移ト
至極ノ愚ナル人ハ賢ヲ嘲リ仏ヲ教テモ其法ヲ
忘ル性ノヨキ処ニウツルト云フ 気質性

べうじ。狂人のまねをして大路をもてらん。則犯人なり。
禅語 狂人走不狂人モ走ル
悪人のまねをして人をころへ。禍のたぐひ。罪をまねぐ。
孟子曰鶏鳴而起ヲ孳孳ト為善者舜徒ト
罪の流れ。いとはしきことも。
此段ハ上ニ已ニ賢ナラズ任賢ヲ見テヒトカヲンコトヲ願ヘ
又ハ愚ナラズトテモ愚ヲ学ベバ人ニコトノ愚ナルヲ教
賢とまねぶべし。

惟継 平氏西ノ洞院ノ嫡流也暦應五年出家
法名 康永二年卒七十八歳
実俗 伊平大納言ノ孫
聞伊

惟継中納言は風流の才ありけり。
詩ヲ一キハヲ云
富ましかば多くの人を歌ひ一生精進して
富ハ多クアルヲ云年歌ハ齢長ヲ云家富ハ財多ヲ云
後世のことをもこころにかけて。
内モ
ちなみに法師にて。
是ヨリ惟継ノ物語
文保は三井寺やられ

ち法師 山ト寺ハ叡山ト寺ト云ハ三井寺ト
文保ハ花園院ノ年号ニ文保元年ニ山門ヲ三井寺
焼ク事ヲ
侍僧ども。同宿して法師にけるを。文保は三井寺やられ

時坊主にあひて。此坊をいかにもいかにもせばやと
寺ハちられば今ちらばちらばといとはしきこと
いとしき秀句なり
此段モ仏祖ノ学ズ舞ノ徒ト云ヨリ来テ惟継ノ俗ナガラ
一生精進ニテ読経ト云ハ実ノ沙門ナルヲ云
秀逸句ト云ヘリ

寺ハちられば法師 此心ハ日比因伊僧正ヲ云レシ寺法師ト云ヲ上云ヘリ 又法師ト云下心ハ大憂ノ心ト云ヘリ
破ル為ニ法師ト云ヲ上云ヘリ

酒のまするものの心をもべきことなり。宇治の僧
多くのこゝろを具足坊とて。ちまめきこゝろ適世の僧
風流ナル僧ナリ
をこゝろうとちりれば。学問もつひにうとくあると
慢ヘテ通ルモ
ち近くなるをつのりうれば。ちりなどなれる。口
具足坊ノ舞
つきれおのこゝろ先。どうさをとて。酒をいごーと
一盃ヲ用ル時盃一ヲ入二ヲ入ル入ヲ入ヲ云ヘリ三ヲ盃ニ
土ノ器ヲ用ル時ハ二土器ヲ
れば。ちりけく。
鳴声ト云説アレ共麦ニハ続ク心ナリ
ちとのこゝろ。太刀うちもきて。ひく

志ざまられべ。彼かく云へるを。名具して行ひどに未熟
のゆとして。奈良法師の兵士あまたゝ具してあひたる。
此男こゝろむかひ。日暮[動詞]よりうり山中にあるゝまでぞ。こゝ面
目の又恐ニ上ニラレヨトテ又向ノ人ニ云ヒ
ひへといひて。太刀をひきぬきられべ人むかへ太刀ぬき。天
をげちどしけるとと。具ゑ房をとりて。うつしんちく
解うるものまひ。まうけてゆるし給へといひ。
[理ヲ曲ル]
歌りてこゝね。此男。具ゑ房よあひて。此場へ口をきる
ちゝひつるものふ。とのまを名ひるる。待給へ名待ん
とすることを。ぬけて太刀しちくなる。ひつるとといふ
てひきりまきりて。[糸]つて山ぢちありとのくまり
[ヲバトカウト思ヒ]

妻まべ里人たちて出あへべ。それて山ぢちといひて
ちまうまてきまうまう。馬ハ血つきて。宇治大路の家ニ
おかせて。ちぢりうり。馬ハ[主人馬盃ノ付タルヲ見テ]
しるを入うり。後ハ[ヒ]たのこ井あまちちうこと
れべ。具ゑ房ハ[梔]ちちちちる[原]ちる[今ハ志倉ヘメリ上ヘ]を。りちあ
ぶて。[卦]きもてきつ。[卒]き今いきてど。[生]孫きり[捩]
[乘物ナトニタスケ乘ノ表]
せうまて。[片]と[輪]ちにちりに[此段ハ尤人心ヲ散乱スル者ナレハ其ノ量キヲ思惟ノ載ヲベキ中ニ下部ハ殊ニ可恐ト云ヘ]

或者ー此段愚癡ナル者ハスベキ事ナキヲ云

和漢朗詠　四条大納言公任ノ撰スル処ナリ
朗ハホガラカトヨム詠、吟詠ヲハカセラ付テウタフ也
日本漢ヲ詩ヲ載スルニ依テ和漢朗ノ詠集
号ス又和漢ハ詩哥ニツヲ指ヒ云ヘリ此集ヲ
撰テ二条関白教通公ヲ聟ニセラレシ時聟引出

或者小野道風のかける和漢
[従四位上ノ木工頭道風]
朗詠集をもちうりく
ける。或人ハ[浮ノ字也ハ[ハ]ハ]
[又ハ俗ヲ受テ申ニテ人毎ニモ云ヘリ]

物に出世名由世三云傳フ也

時代やたび

公任ハ一条院ノ御宇康雲三年ニ生ル
万寿三年ニ入道時ニ六十一才 道風ハ村上天皇康保
三年十一月卒ス七十一才 然ハ公任 誕生ハ道風死
去ノ年也後人ノ朗詠ノ始ノ道風ヲ中時代ト
違ト云 或人ノ不審也

「是ヨリ持主ノ逸事也」

さるへいてせよありぐ
く秘蔵しけり 物ノ死非ラクキハ又主人ノ命令ニ
背ク 拒ム

猫まる

和名抄ニ猫 金花猫ハ黄ナル猫ヲリ作ル
婦女ノ愛ス 類聚文大ハ 續耳談月令廣義ニ云

てんをくらふちゝと人の
にも猫のへありて。猫こまにになりて。人をとらあ
ちゝ猫をとゝいふものゝ

しけるを法師の約束ちの約束堂ノ貴ハ不明
あるまうん分ハんをべきをとらに
ぬて。猫をかまて連寄
川のちゝて。寄ちきてしれ
ふとりきて。やてくきつく
とまの猫ハもりせて。ちせうん
小川へこゝろび入て。たとけとも
べへ。猫くもり。松ぐしいとり
ちゝりまんまる猫なりぐこへいとて。河の中ちり
いぐきたこれべ。連寄のけものとりて。扇川猫

ど懐に持ちけるも。水に入りぬ。希有にして。たすけ[illegible]
[illegible]。[illegible]に入りぬ。ひるの犬のうつれど。
主と云うて。らび付きうつ[illegible]
此段も世上に奇怪なる化物などに逢ひ上云ハ皆魔病心ニ[illegible]物自ニ[illegible]ギリ[illegible]イヲ恐テ化物
ナリト心得ル也上云フ教ユ

大納言法名[illegible]

僧ノ名ヲ付ル実平法名ニ[illegible]

ものを云うて常よりゆきあ[illegible]
うと。法下いぶくへゆきつうと問へ。やとうれ[illegible]許
ゆうていとい。[illegible]
恥ヲヒキ体ク
[illegible]ハ男ノ法師と[illegible]られて。純
是ヲ兼好判
[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]と[illegible]

此段ハ或抄ニ曰男色ノ交ニテ通ヒタリト見ヘタリ其誤リ[illegible]故ニ尚[illegible]ニテ一心迷乱ノ辞ノ首尾[illegible]
ヘリ誰モ如此[illegible]遇ルコトヲ 尚ヒメラレテハ必ニ[illegible]ニ相違ノ一有リ云ヘルヲ記ト ○爰ニ一説アリ是ハ貴ハ恋人
ノ体ヲ顕ス日比睦ヒタヒニタル人ヲ向ヒテ頭ヲ見又ニ云ハ六至ニ恩人ハ故ニ男法師ノ分キヲ不見[illegible]
此ニ善悪ノ自利ナク人ニ交ハ人ノ明友ニ奇友損友ノ利益友ヲ避善友ヲ親ハ日ク[illegible]
故ニ交ヲ結ノ中ニ其ノ善悪ヲ見付ル人ハ猶し麗丸が如しと云ヘルヲ教フ

赤舌月 假名コヨミニ[illegible]ヲ日[illegible]

通書大全曰赤舌月忌貪客ヲ[illegible]

[illegible] 此度不審也 簠簋ニ此沙汰

ヲ兼好沙汰ナキ大如何但ニ陰陽道ニ秘事

世間ヘ出サルニ依テ偶ク兼好不見者ク

[illegible]日と云ふ。法陽道ニ[illegible]
[illegible]。昔ハ人[illegible]と[illegible]
[illegible]初ける。此日わるくて[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
[illegible]成就せず
[illegible]
[illegible]
[illegible]

常住場のさうひ。あることも稀なれば。話あることも稀なれば。

【存在トアルト云寺ニ曰ハク】

志はとけを。諸人問うべし。

【豊常住ハ主ノ】天地ヲ殺ノ乾坤ニアラスル処ノ物一ツニシテ常住ニテウツリカハラヌト云フナリ

人の心不定なり。

【幻化】幻化ノ二字仏書ニ多ク出ツ万物空ニ吉ノ用ノアダナル世ナレハ何ノ方住ニ常ナラズトモ

朝ノ心又タ暮ニ替リ若キ時心老ノ後又カハリ

世なるゆゑ出つるも住する。此理をさつざるかなり。

万物ノ易ノ理ヲ知ラズ後ニ後ニ日ヲ延

吉日ゆ悪となるにあらず。

以ノ字所要ナリイカナル大吉日ヲ以テ悪ニ用ヒ悪日ヲモ吉ニ用ヒ吉ヲモ悪ニ用ヒ吉ヲ悪ニ用ヒ悪ヲ吉ニ用ヒ

ふる必吉ことなり。吉凶ハ人ゆゑ。

此段ニ見ヤウ在リ世人行跡ヲ房ヌヒ一向月ニ任セテ執行ス故其ノ愚ナル心ヲ破ラ為ニ云ヘリ實ニ吉月吉日ナキニアラズ或ハ孤虚王相ノ方角ヲ定テ大軍ヲ起シ或ハ年月時日ヲ考テ本卦ノ吉凶ヲヒテ日用ノ行ヲ敬ス此ハ此段ノ辞ニ泥テ多事忘ラ

戎人弓射ること

妙なる矢をたばさみて的よりもうつの矢をたのまずして。後の矢をたのまずして。

めの矢よりのちとさうし心あり毎度只此矢ちく。此一矢

遊仙窟ニ平生トカリ子ノ念ヲ文等用モカリナガヤリ申ベトヲ云ク

よ定べしと思へと云。うづうは二の矢。師のおそひ

とりを。たうよりはんと思ふ。ちうはんや。怠の心うづ云

【ろを】朱文公勸学文ニ勿謂今日不学而有来年月日逝矣歳不我延嗚呼老ヌ矣是誰之愆又曰ハク学ヒ而ハ心ニカセテ今日空クスクヒツル哉

あんことを思ひて。うちの

ことを。いちんや。一刹那の中よ

【又一弾指ハ六十五刹那ナリ】

ちうんや。なんぞ。只今の一念

【一念発スル処ニ於テ其ヲ修セヨトノ】

の中の甚

【イカニシテナリタル執行ノ事難ヒトカメ辞ク】

牛を賣ものあり。買人ありて、牛
を[此段人欲ニ溺シテ自己ノ樂ヲ忘レタツガハシク利益ヲ貪ル者ノ戒メ]とらんといふ。[牛ノ代物ナリ]あるひとをすゝめて牛
のまへ[其人ノ脇ヨリ評判ノ約束ヲ云ヒタル者ノ同ジ]にて牛死ぬ。[其人ノ脇ヨリ評判ノ]うんとする人は損
ありうらんとする人は損あり。そこ
まで[傍ノ字ノ側ノ字モ用ヒ人ハ兼好ナリ]なるものいとく。牛の皮。海に損ありと
いへり。まこと大欲のあり。[ヲホキ]まことあり生あるものの死のちか
きことを知るべし。牛既に死[牛ノ死ノ方ニ死ニタルト同ジ不定ノ人ト]なり。人又たちまち
[牛ノ死ノ方ニ死ニタルト同ジ不定ノ人ト]うさるる牛は死。[牛ト人トクテ定ノ外ニ生ノ偶存命ノ]うさるる人は死ぬ。一日の命。
万金[万金ノ金ヲクラブレバ]よりもおもし。牛のあひ[方金ノ金ヲクラブレバ]鵝毛[ガモウ]よりもかるし。方
金をもて一毛を失ふ。損
[鵝毛]司馬遷報任少卿書曰人固有一死或重太山或輕鵝毛[ヨリ]又雪似鵝毛[ヲ]長歌
つといふべし。[人ハ自ニ落ヌ]人朝[モリ]て。[人ハ自ニ落ヌ]夕[ヨリ]死。理は牛の皮に
[其ノ命ハ誰モ存命ナレバ必ズ牛ノ去ルベキアラズシテ右ノ文ニ兼好ノ]くるるとかいふ。[人死]とかくされば人死とかくまべ。と
を[ヲ]もまべし。存命の悦[ヨロコビ]日々に楽[タノシ]さんやをろかなる人。
楽をつとめて。いとなむ[煩ヒナリ]べし。[金銀米錢]財[タカラ]の[ノ]たのしびを求め。財[タカラ]
[人間生ノ樂ニ目ノ命アルニヨルベキナリ]をもとめて。あやうく。他の財[タカラ]
なし。いける間生[キ]をうまをもとめて。[志ヲ]こころざしつゝ[ちからの人百年ノ生ニ百ノ力ヲ入レテ]死[シ]のそこに死と
[死ルベキハ人ノ生キ宜ナリ]れそれべ。[余ノ方金ニ引キ重キニヨリテハ牛ノ去ルベキヨリモ同ジトスレバ]ことにあらん。人[死ニ在テ恐レバ牛ノ去ニ不限ル理不可立ベ]
ば。死をおそれざるゆへなり。死をおそれざるにはあらず
死のちかきことをわすれざるにはあらず
らずといふべ。[其ノ人ニハ此理ヲ云ニ不定ベ]この理をわきまへ
[生命ノ人]へいとくあざけり。[生ノ下ニ十六ハ図道ノ矣ト云ヒ同ジ]
[是ニ引キ一切ノ人ノ読ノ者ハ又我ハ不生ノ不滅ニハ生ヲ不樂死ヲモ不恐ト云ヒ]
[其ノ人ハ]生死の[ノ][illegible]

從然草諺解巻二